

平成 23 年度 薬剤支出と後発医薬品の

効果・影響に関する調査分析報告

平成 25 年 1 月

調査分析の目的と概要

- 本調査分析は、平成 23 年度の調剤医療費の動向と後発医薬品の普及状況、使用による効果・影響を 631 組合の調剤レセプト（電算処理分）を対象に調査したものです。平成 22 年度と 23 年度の比較調査では、同一の 471 組合のレセプトを対象にしています。

※なお、本内容によるデータは、全組合の集計ではなく、対象組合数が限定されていること、23 年度と 22 年度の比較は、便宜上、加入者調整等を考慮していない単純比較のため、必ずしも組合全体を正確に反映したものではなく、若干、偏りが生じている可能性があることにご留意下さい。

※75 歳以上の加入者は原則、後期高齢者医療制度の適用対象者のため統計上存在しないはずですが、①診療年月日を診療年月の月末として計算しており、75 歳の誕生日を迎える月に誕生日前に診療を受けた場合に年齢が 75 歳となるため、75 歳以上に計上しているほか、②外国に住所を有する 75 歳以上の加入者についても 75 歳以上に計上しています。

【単年度（23 年度）調査】

| 対象組合数 | 631 組合 |
|--------------|-------------------------|
| 加入者数 | 1,386 万 7,071 名 |
| 調剤（電子レセプト）枚数 | 4,633 万 5,534 枚 |
| 金額 | 3,761 億 4,287 万 1,050 円 |

【前年度（22-23 年度）比較調査】

| 年度 | 平成 22 年度 | 平成 23 年度 |
|-------------|------------------|------------------|
| 対象組合数（同一組合） | 471 組合 | 471 組合 |
| 加入者数 | 1,033 万 9,343 名 | 1,119 万 8,950 名 |
| 調剤（電子レセプト） | 3,567 万 4,305 枚 | 3,725 万 4,560 枚 |
| 金額 | 2,805 億 58,77 万円 | 3,045 億 72,88 万円 |

《調査分析の結果概要》

I. 23年度調査のまとめ

(1) 1人当たり調剤医療費：

- ・23年度の加入者1人当たり調剤医療費は、本人：26,559円、家族：27,740円で、月次推移では3月、4月、12月で高くなる傾向にある。

(2) 医療費総額に占める調剤医療費の割合と内訳：

- ・医療費総額に占める調剤医療費の割合は19.3%（紙レセを含む）で全体の約2割を占める。
- ・調剤医療費の内訳をみると、技術料が29.4%、薬剤料（特定保険材料料を含む）が70.6%となっており、技術料が全体の3割を占める。
- ・年齢階層別に調剤医療費の内訳をみると、技術料の割合は乳幼児、就学者の階層で高く、年齢階層が上がるにつれて低くなる傾向にある。

(3) 後発医薬品の普及状況：

- ・薬剤総使用量に占める後発医薬品の割合（数量ベース）は21.7%、薬剤料に占める割合（金額ベース）では8.5%となっている。
- ・調剤レセプトの月次推移をみると、後発医薬品を1剤でも処方しているレセプト件数の割合は全体の43～50%となっている。
- ・都道府県別に普及状況（数量ベース）をみると、①沖縄県：35.3%、②鹿児島県：27.7%、③岩手県：26.4%となっている。

(4) 後発医薬品に代替可能な先発医薬品の割合：

- ・先発品（特許期間内及び特定器材）、先発品（後発品に置換可能）、後発品に区分して薬剤料（金額ベース）をみると、①先発品（特許期間内）：58.5%、②先発品（後発品への置換可能）：33.1%、後発品：8.4%となっており、約3割が後

発品への代替が可能な薬剤となっている。

- ・薬効分類別に後発品に代替可能な先発医薬品の割合をみると、①末梢神経系用薬：39.3%、②抗生物質製剤：38.3%、③人工透析用薬：35.8%の順に高い。なお、後発医薬品の使用割合が高いのは、①ビタミン剤：27.0%、②消化器官用薬：10.1%、③滋養強壯剤：8.2%となっている。
- ・仮に後発品に代替可能な先発品を最低価格の後発医薬品に置き換えた場合、削減額は456億円、17%の削減率となる。

II. 対前年度比較調査（471組合）のまとめ

(1) 調剤医療費の伸び率：

- ・調剤医療費の対前年度伸び率は約8.6%となっており、伸び率の月次推移では、とくに4月の伸び率：16.7%が顕著となっている。
- ・調剤医療費を医療費3要素に分解して伸び率をみると、1件当たり回数が総じてマイナスの伸びになっていることから、調剤医療費の増加は受診率（1人当たり件数）、1回当たり調剤医療費の伸びによるものと考えられる。

(2) 調剤医療費の伸びの内訳と構成割合：

- ・調剤医療費の伸びの内訳（金額ベース）をみると、①技術料：+4.4%、②特定器材等：-7.1%、③先発品（特許期間内）：+10.8%、④先発品（後発品に置換可能）：+8.2%、⑤後発品：+16.8%となっており、後発品の伸びが大きい。
- ・一方、構成割合（金額ベース）をみると、最も大きな割合を占めているのは先発品（特許期間内）：40.9%で前年度より0.8ポイント増加、ついで技術料29.4%で前年度より1.1ポイント減少している。なお、後発品は5.9%で前年度より0.4ポイント増加している。

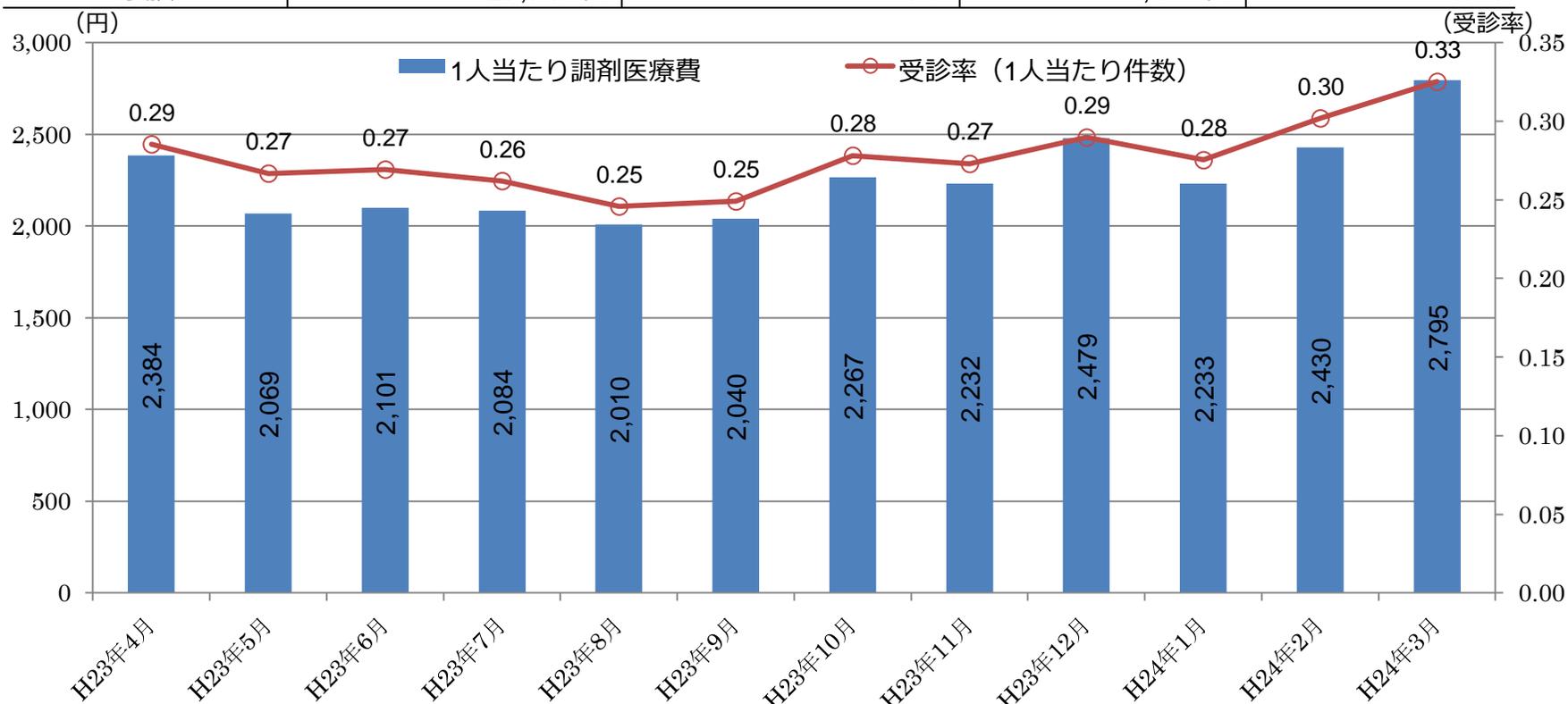
(3) 年齢階層別にみた医薬品使用量、後発医薬品の伸び率：

- ・年齢階層別の医薬品使用量の伸び率をみると、5-19歳の就学者層の伸びが高い傾向にある。
- ・後発医薬品金額の伸び率をみると、年齢階層が上がるにつれて高くなる傾向にある。

調剤医療費：1人当たり調剤医療費と医療費3要素

- 23年度調剤医療（本人・家族計）を1人当たり医療費及び医療費3要素からみると、1人当たり医療費：27,125円、受診率：3.32、1回当たり調剤医療費：6,376円、1件当たり回数：1.28—となっている。
- 1人当たり医療費の月次推移をみると、4月、12月、3月で高い傾向が示されている。

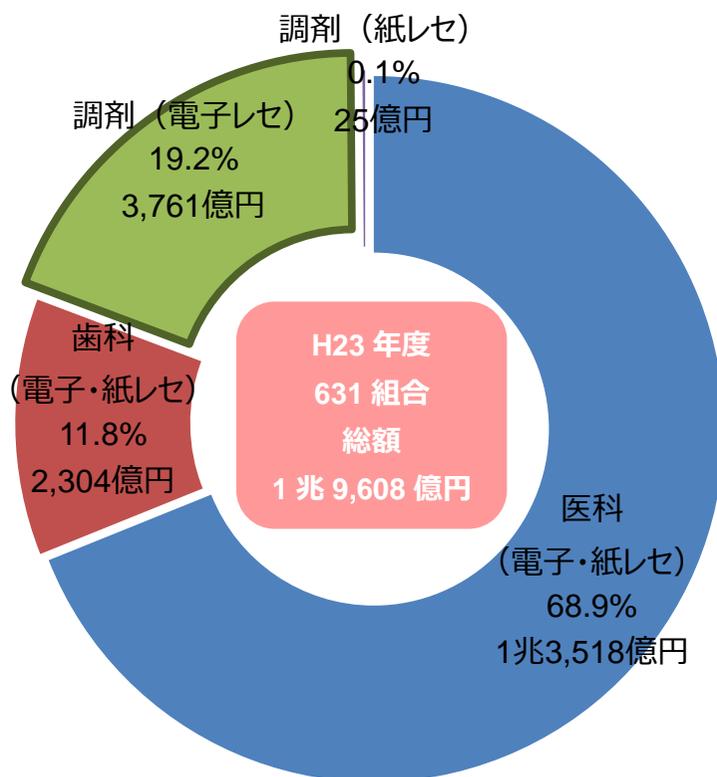
| | 1人当たり調剤医療費 | 受診率（1人当たり件数） | 1回当たり調剤医療費 | 1件当たり回数 |
|--------|------------|--------------|------------|---------|
| 本人・家族計 | 27,125円 | 3.32 | 6,376円 | 1.28 |
| 本人 | 26,559円 | 2.86 | 7,660円 | 1.21 |
| 家族 | 27,740円 | 3.83 | 5,430円 | 1.34 |



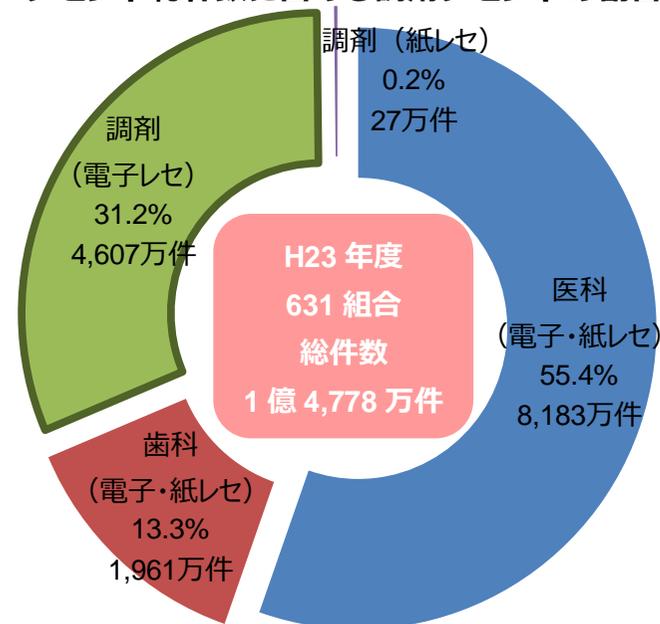
H23年度の調剤医療費の現状

- 医療費総額（631組合分：1兆9,608億円）に占める調剤レセプトの割合を金額ベースで見ると、全体の約19%（3,786億円。紙レセ含む）を占めている。また、件数ベースでは約31%となっている。

医療費総額に占める調剤レセプトの割合

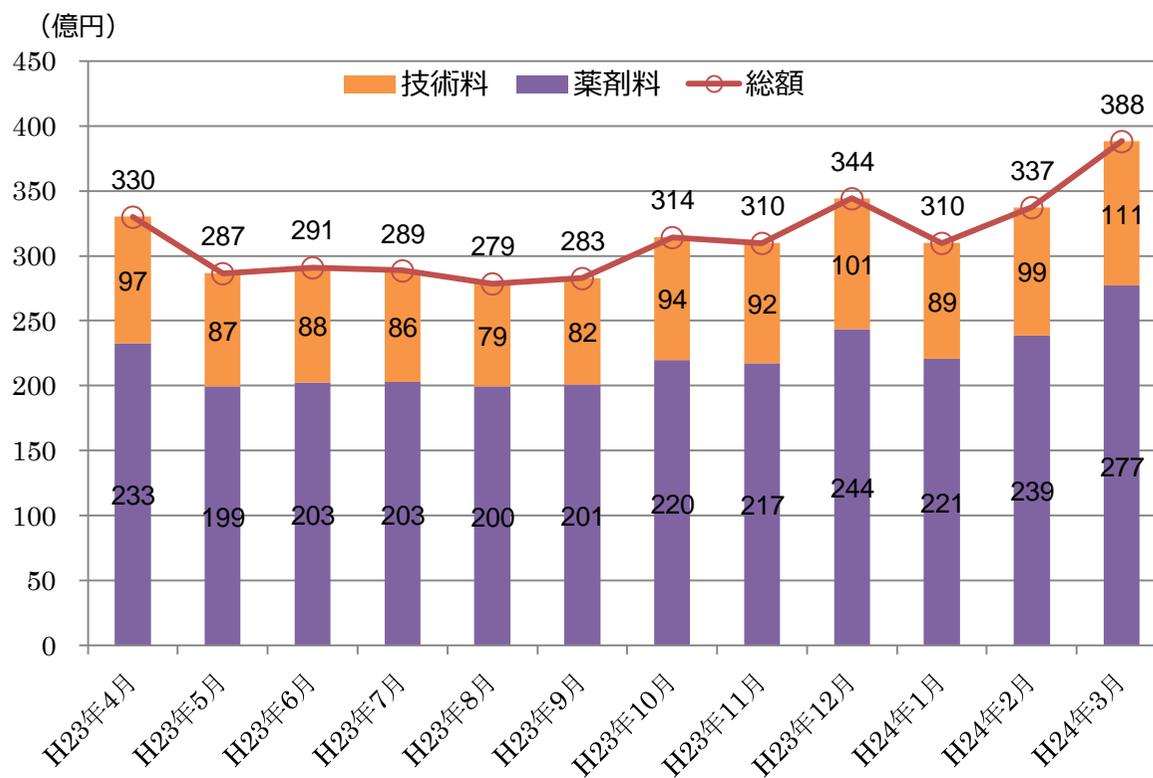
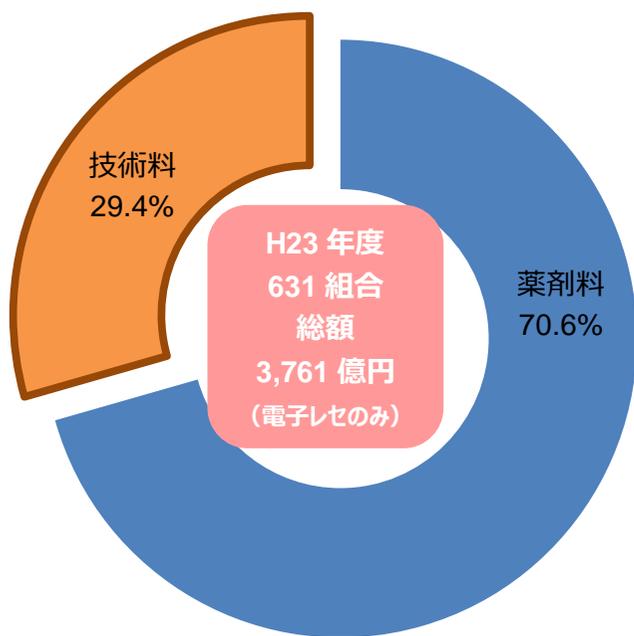


レセプト総件数に占める調剤レセプトの割合



調剤医療費の内訳

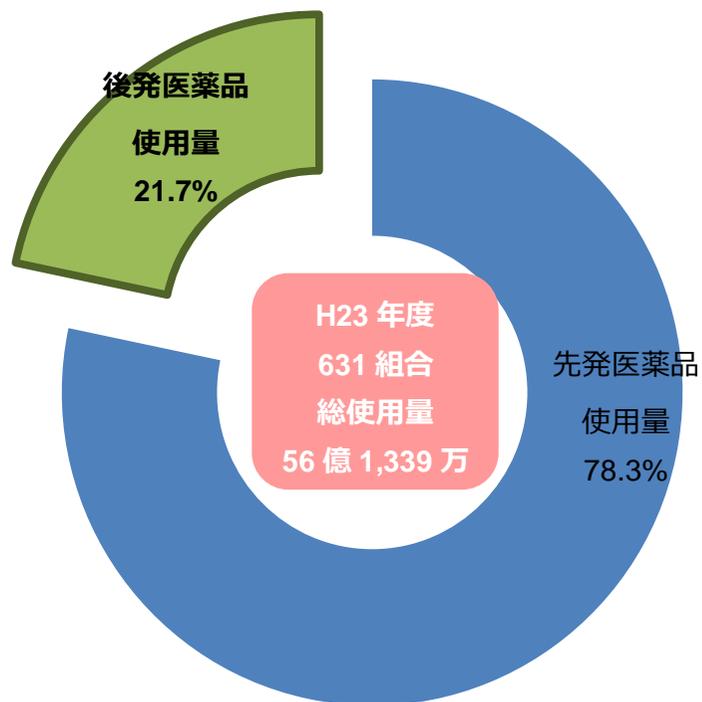
- 調剤医療費の内訳をみると、技術料：29.4%、薬剤料（特定保険医療材料料を含む）：70.6%と、約 3 割を技術料が占めている。なお、「技術料」とは、薬剤料及び特定保険医療材料料以外の、保険調剤薬局における①調剤基本料、②調剤料、③調剤料の各種加算等—のことを指す。



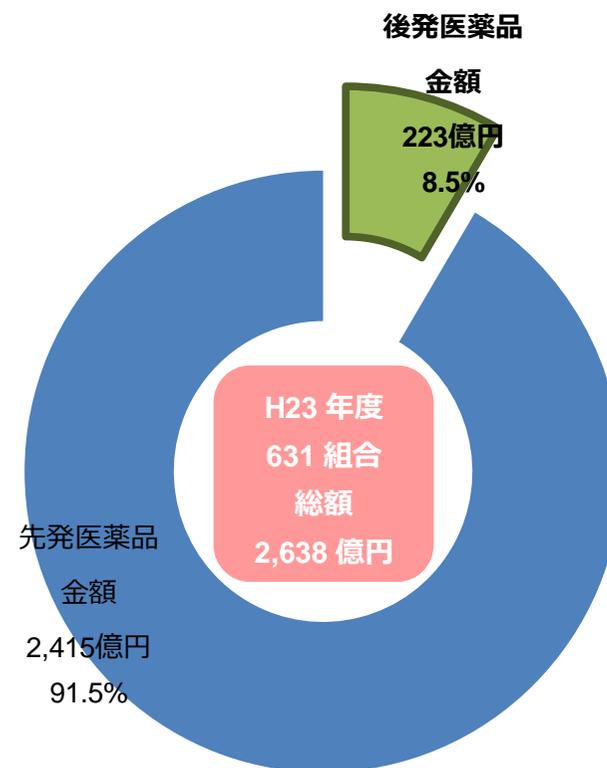
平成 23 年度の後発医薬品の普及状況

- 後発医薬品の普及状況をみると、先発医薬品使用量：78.3%に対して、後発医薬品使用量は 21.7%となっている。また、金額ベースでみると、先発医薬品：91.5%に対して後発医薬品は 8.5%となっている。

薬剤総使用量に占める後発医薬品の割合（数量ベース）



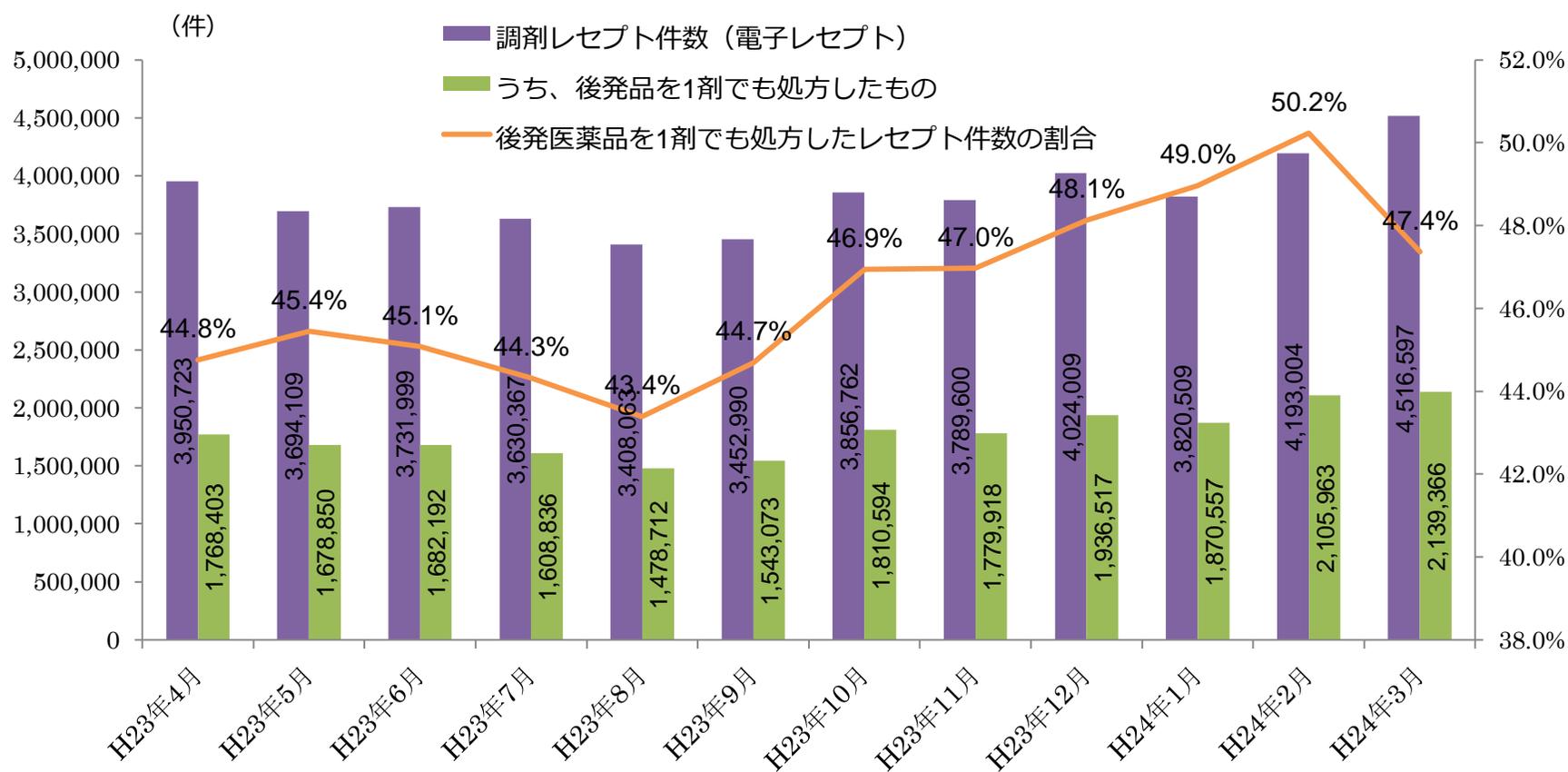
薬剤料に占める後発医薬品金額の割合（金額ベース）



(※上記金額には特定器材料を含まない)

調剤レセプト件数の月次動向

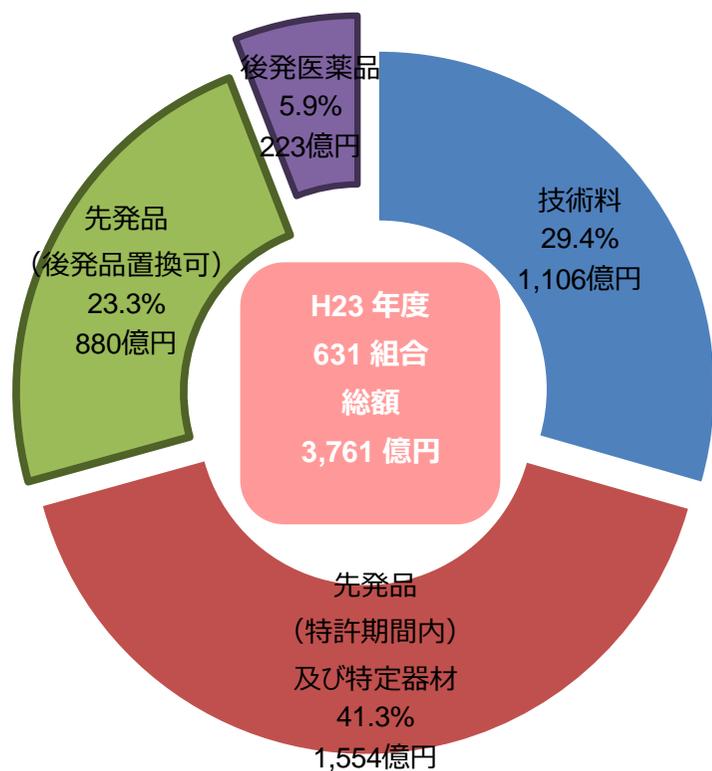
○ 調剤レセプト（電子レセプト）件数の月次推移をみると概ね 350～450 万件で推移しており、そのうち、後発医薬品を 1 剤でも処方したレセプト件数は 140～210 万件で全体の 43%～50%となっている。



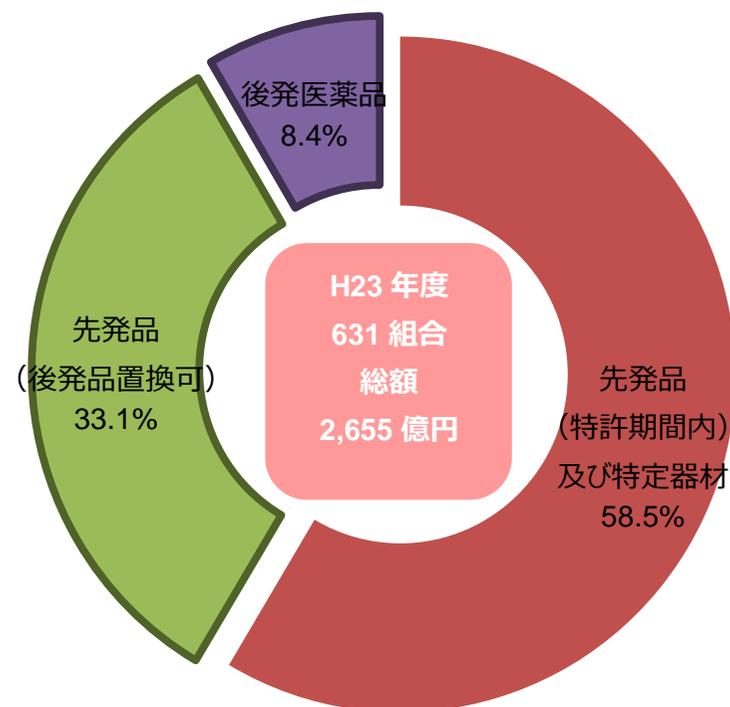
調剤医療費及び薬剤費に占める代替可能な先発品の金額・割合

- 左の円グラフは、薬剤医療費に占める後発医薬品に代替可能な先発品の金額・割合を示したものである。薬剤医療費全体（技術料を含む）で先発品は 64.6%となっているが、そのうち、全体の 23.3%に当たる先発品が後発医薬品への代替が可能な薬剤となっている。
- 代替可能な先発品 880 億円を、仮に最低価格の後発医薬品に置き換えた場合の削減額は 456 億円と見込まれる（詳細は 16-19 頁を参照のこと）

薬剤医療費総額に占める代替可能な先発品の金額・割合



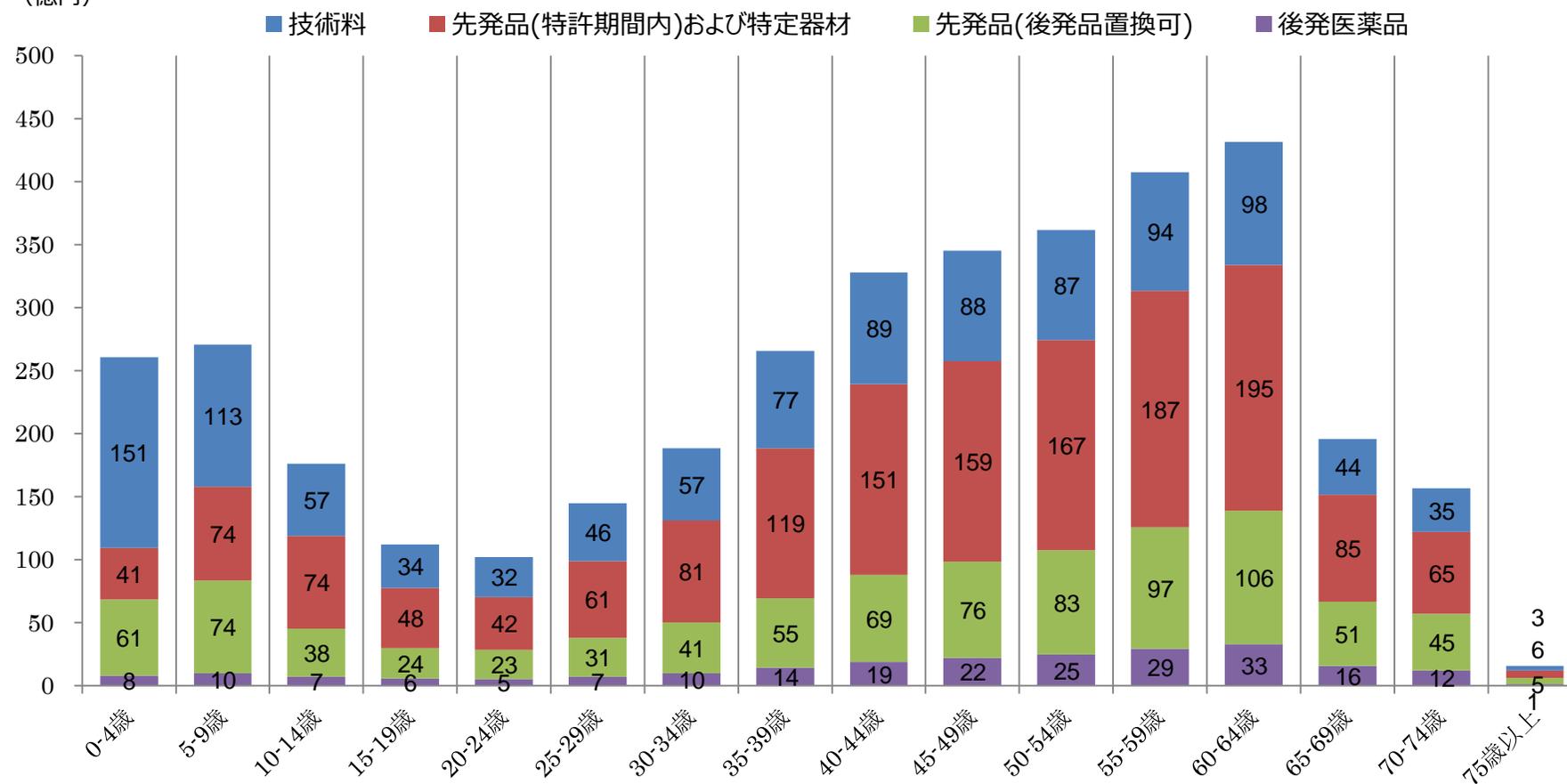
薬剤料に占める代替可能な先発品の金額・割合



年齢階層別にみた調剤医療費の内訳（金額）

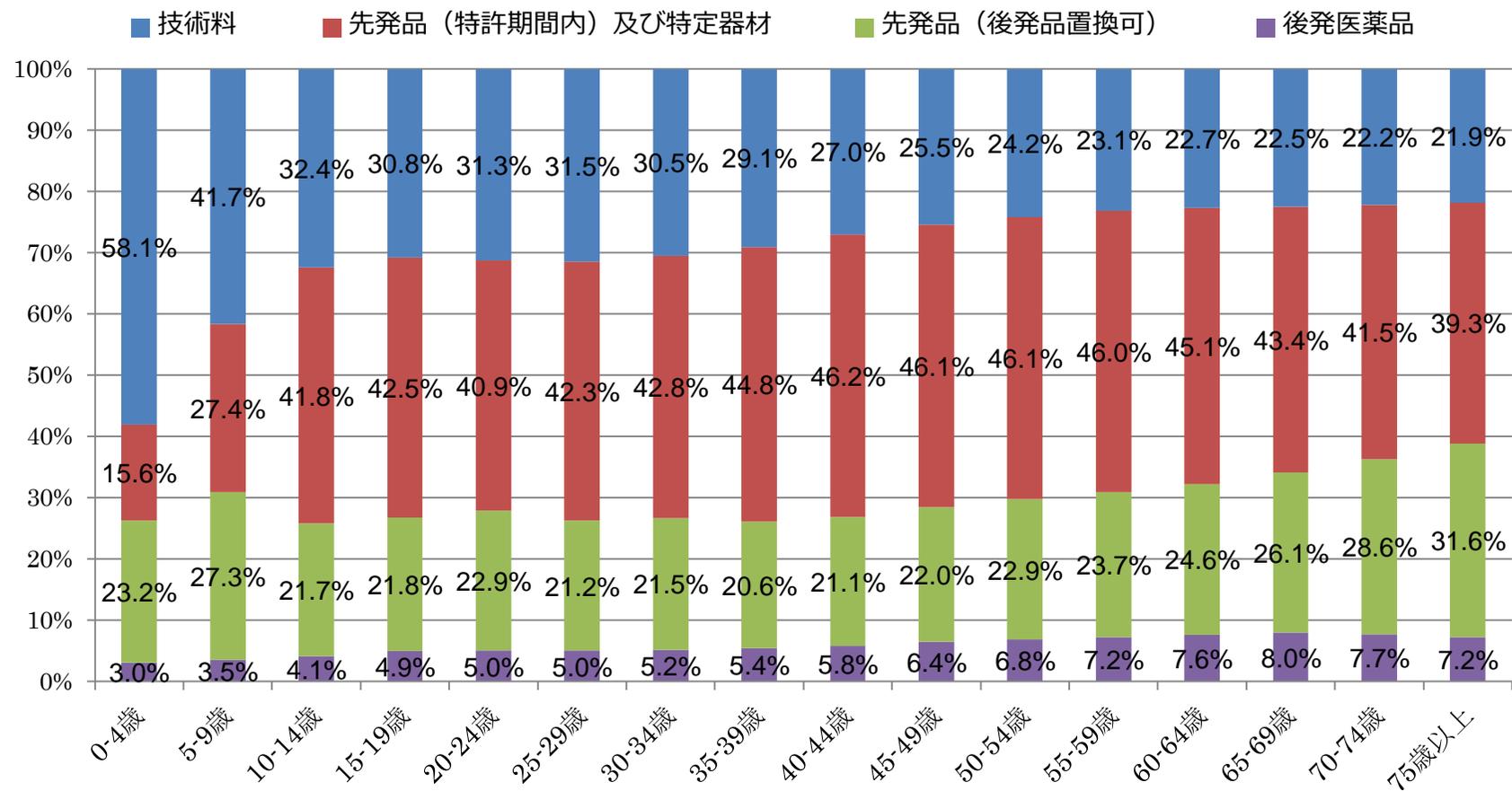
- 年齢階層別に調剤医療費の内訳をみると、技術料 ■ は 0-4 歳：151 億円、5-9 歳：113 億円と、9 歳以下で大きな比重を占めている。
- 後発品 ■ 及びは後発品に代替可能な先発品 ■ は年齢階層が上がるにつれて増加する一方、年齢階層が上がるにつれて特許期間内の先発品 ■ が大きな金額を占めていることがわかる。

(億円)



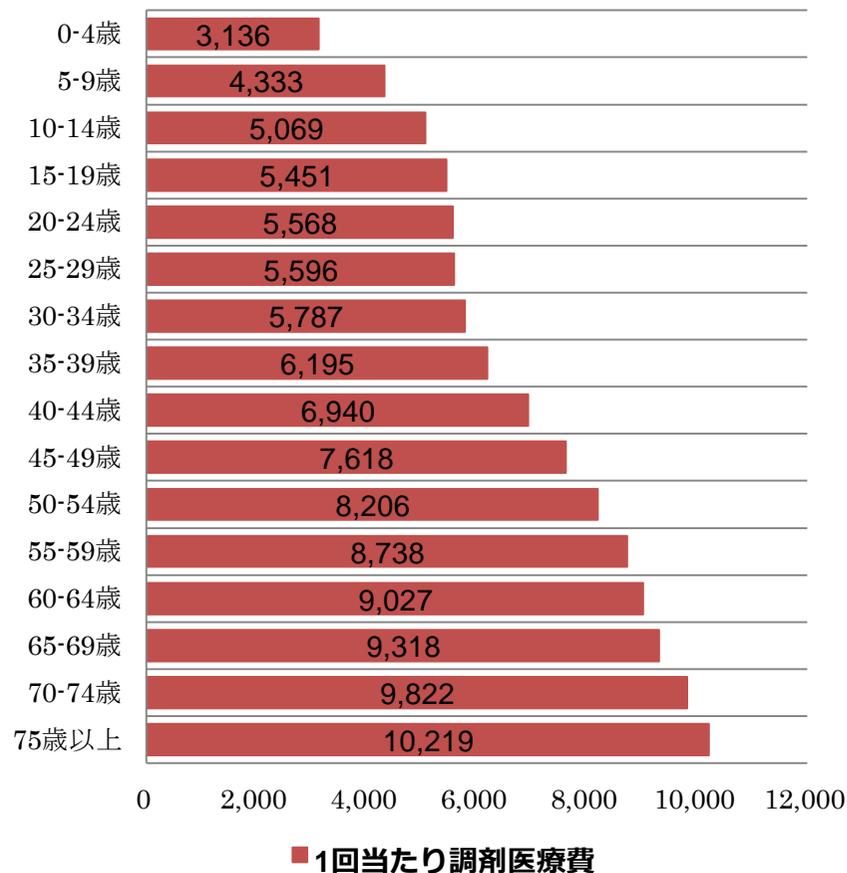
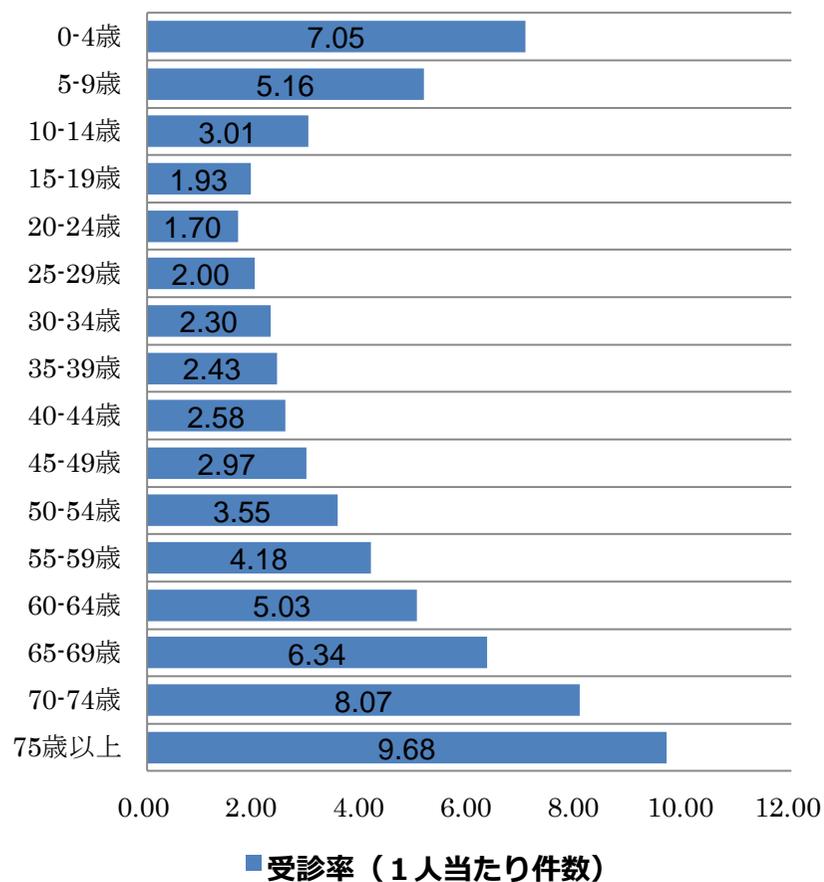
年齢階層別にみた調剤医療費の内訳（割合）

- 年齢階層別に調剤医療費の内訳割合をみると、年齢階層が上がるにつれて後発品の割合が増加する傾向が示されている。一方、技術料の割合は年齢階層が上がるにつれて減少する傾向が示されている。



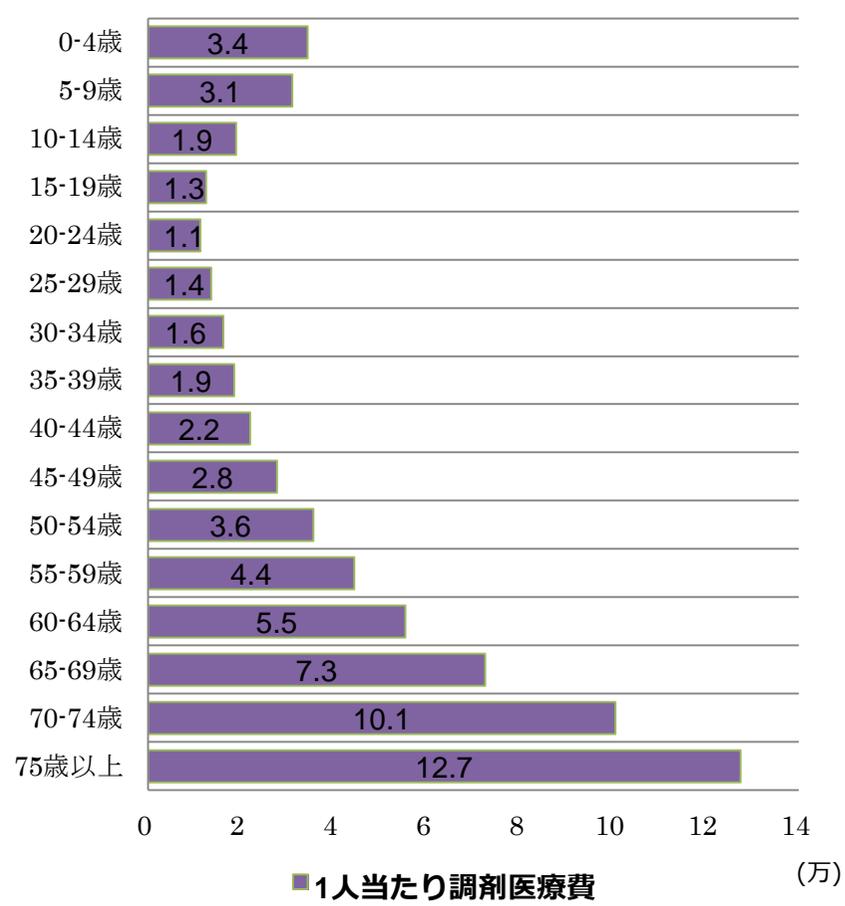
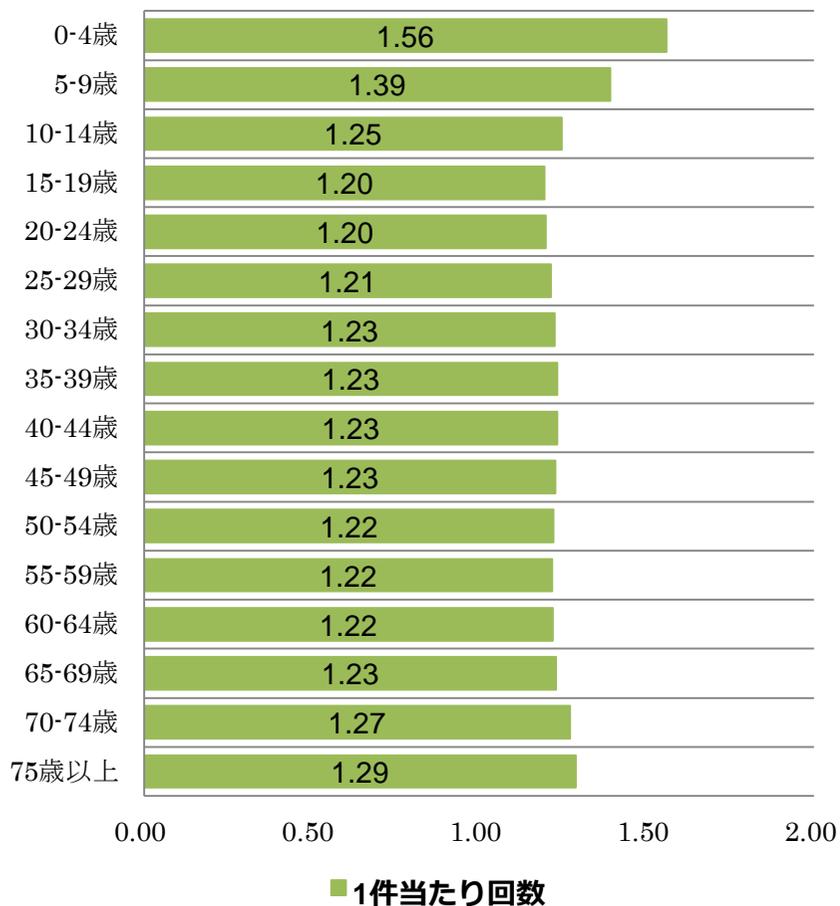
年齢階層別にみた薬剤医療費の医療費 3 要素①

- グラフは年齢階層別に調剤医療費の受診率と 1 回当たり調剤医療費をみたものである。
- 受診率は、0-4 歳で：7.05、5-9 歳：5.16 と比較的高い数字を示しているほか、高齢者の受診率が高いことがわかる。
- 1 回当たり調剤医療費は年齢階層が上がるにつれて高くなっている。



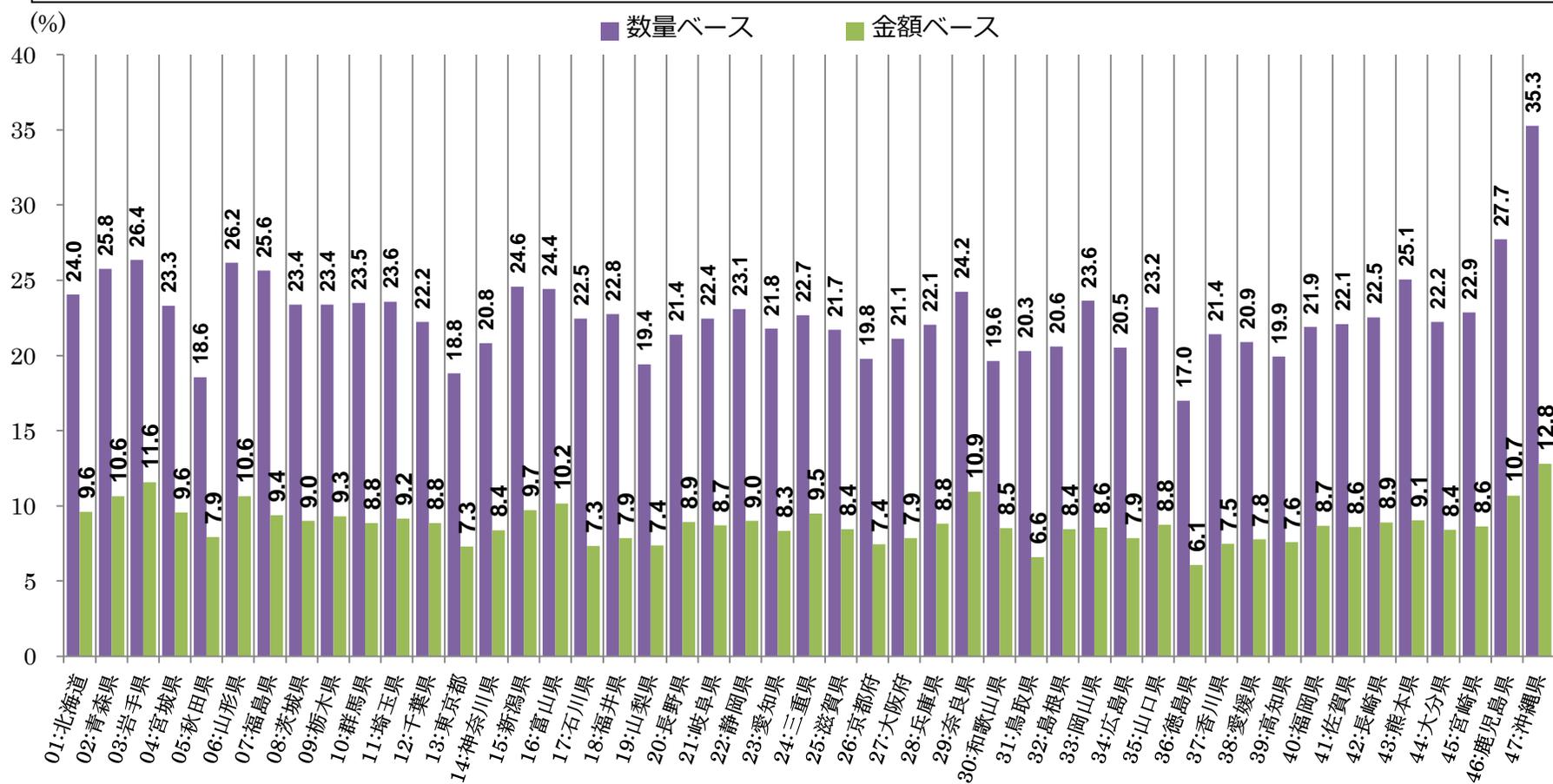
年齢階層別にみた薬剤医療費の医療費 3 要素②

- グラフは年齢階層別に調剤医療費の1件当たり回数と1人当たり調剤医療費をみたものである。
- 1件当たり回数では、0-4歳：1.56が最も高く、ついで5-9歳：1.39と、乳幼児、就学者の階層で高い傾向がみられる。
- 1人当たり医療費は、0-4歳：3.4万円、5-9歳：3.1万と比較的高い傾向があり、以降、年齢階層が上がるにつれて高くなっている。



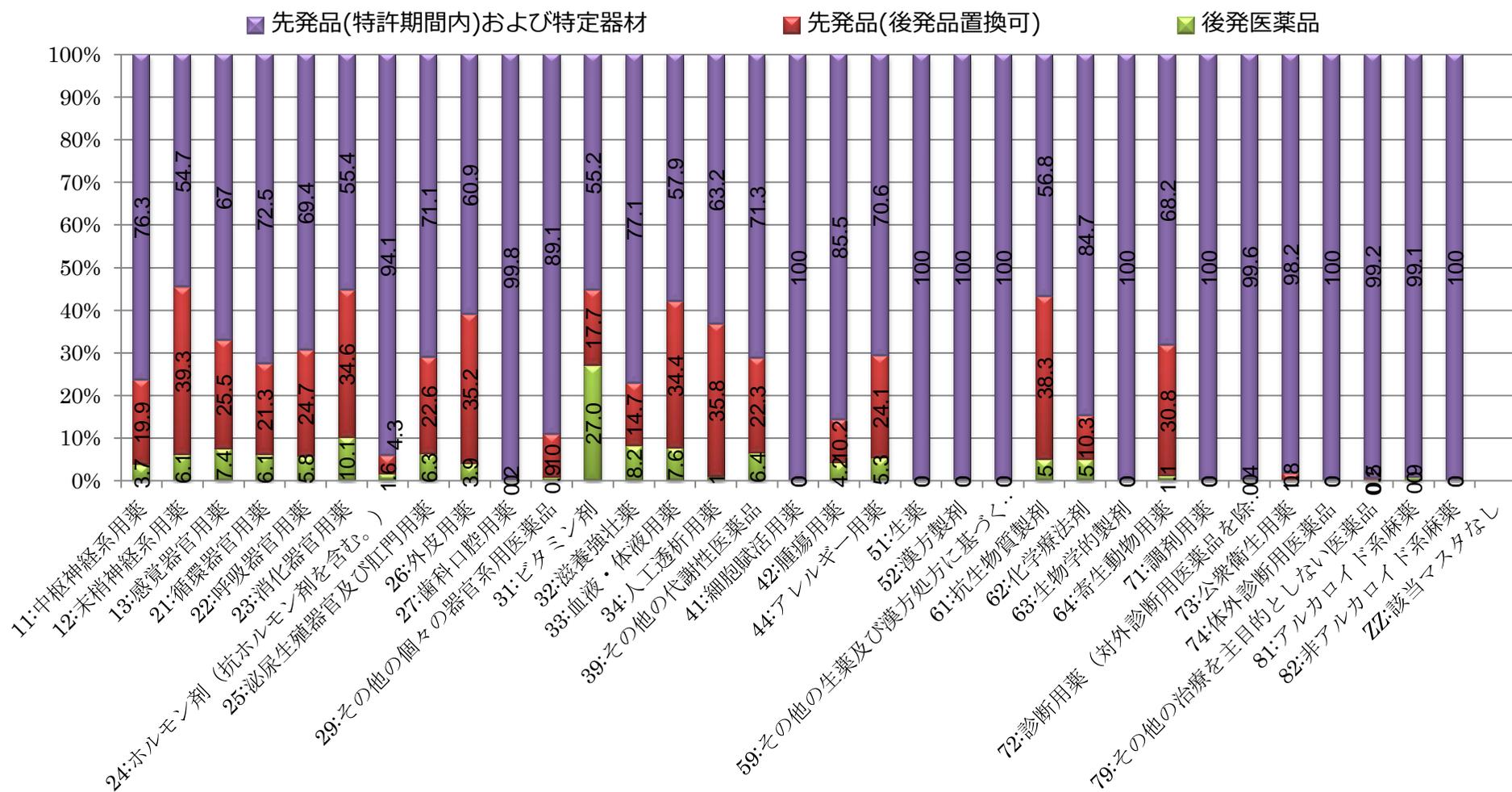
都道府県別（保険薬局所在地）にみた後発医薬品の処方状況

○ 都道府県別（保険薬局所在地）に後発医薬品の処方状況をみると、数量ベースで最も割合が高いのは、①沖縄県：35.3%で、ついで、②鹿児島県：27.7%、③岩手県：26.4%—となっている。逆に割合が低いのは、①徳島県：17.0%、②秋田県：18.6%、③東京都：18.8%—となっている。



薬効分類（2桁）別にみた後発医薬品の割合

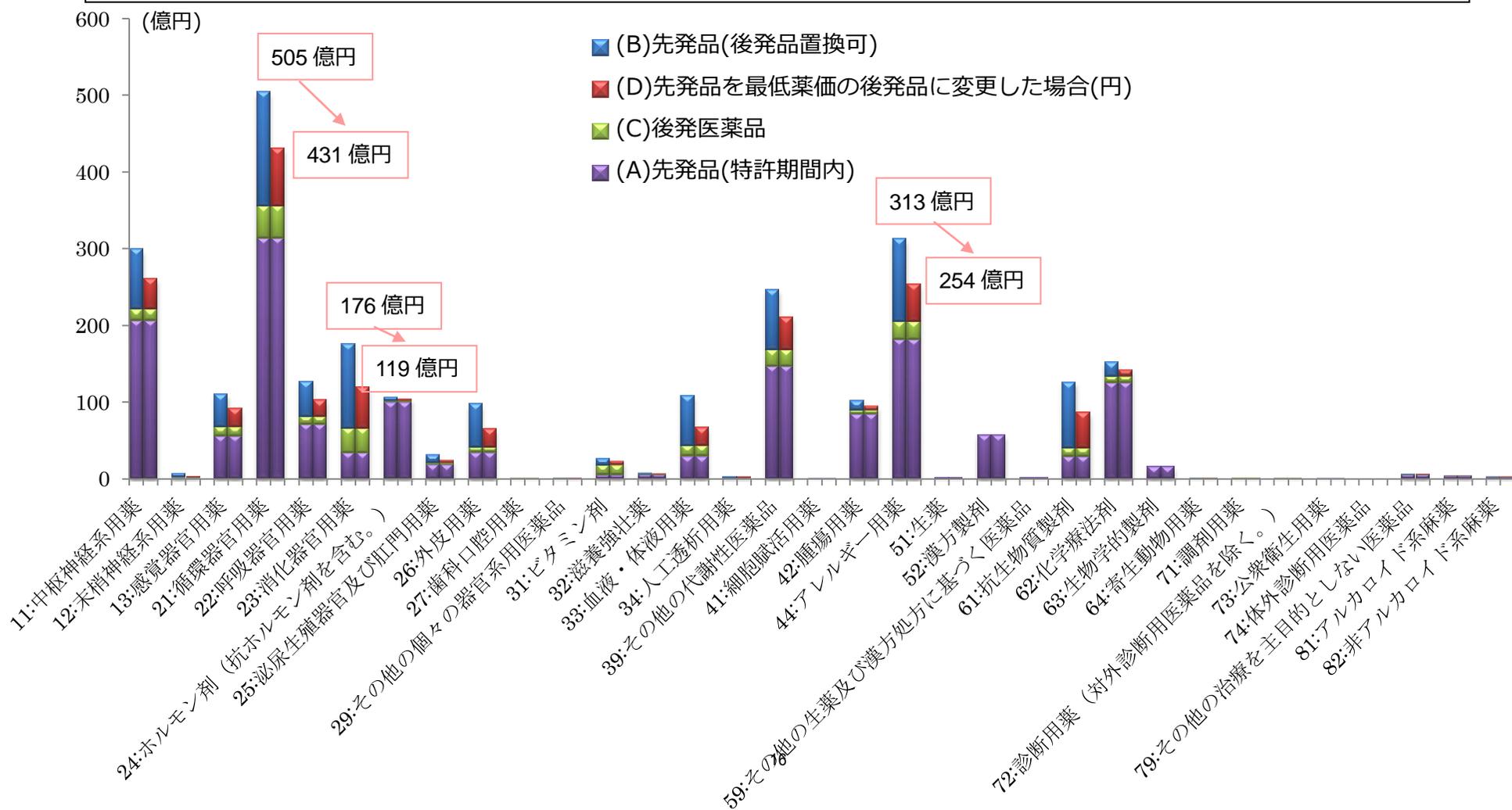
○ 薬効分類別に後発医薬品に代替可能な先発医薬品 ■ の割合をみると、①末梢神経系用薬：39.3%、②抗生物質製剤：38.3%、③人工透析用薬：35.8%—の順に高い。一方、後発品 ■ の使用割合が高いのは、①ビタミン剤：27.0%、②消化器官用薬：10.1%、③滋養強壮薬：8.2%—となっている。



薬効分類別にみた後発品に代替可能な先発品を最低価格の後発品に置き換えた場合の削減効果（粗い試算）

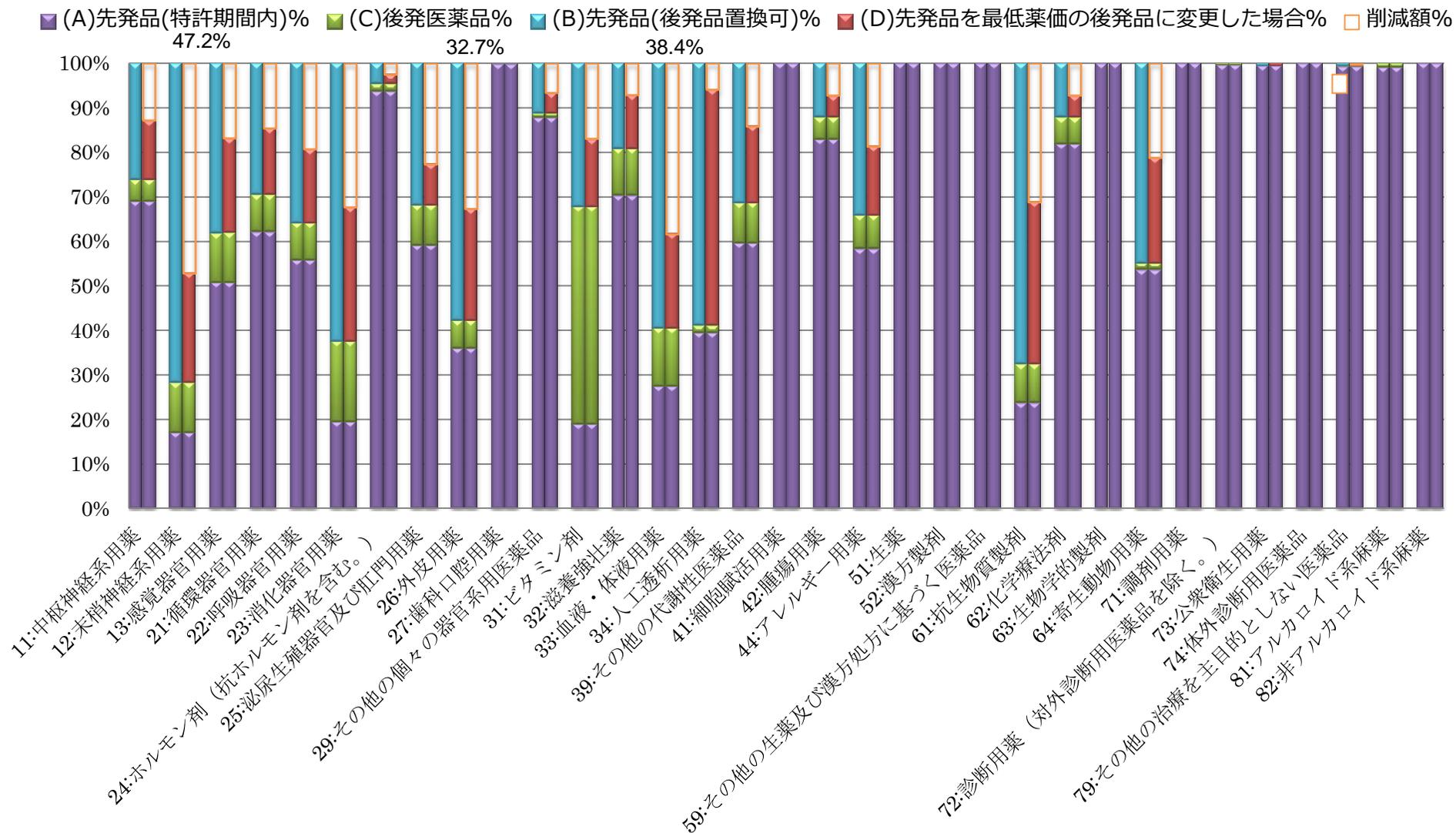
○グラフは薬効分類別に左に現状、右に後発品に代替可能な先発品を最低価格の後発品に置き換えた場合 ■ の金額を示している。削減金額が大きいのは、①循環器用薬：74 億円、②アレルギー用薬：58 億円、③消化器用薬：57 億円—となっている（実額については次頁参照のこと）。

○削減率（次頁）では、①末梢神経系用薬：47%、②血液・体液用薬：38%、外皮用薬：33%—の順となっている。



薬効分類別にみた後発品に代替可能な先発品を最低価格の後発品に置き換えた場合の削減率（粗い試算）

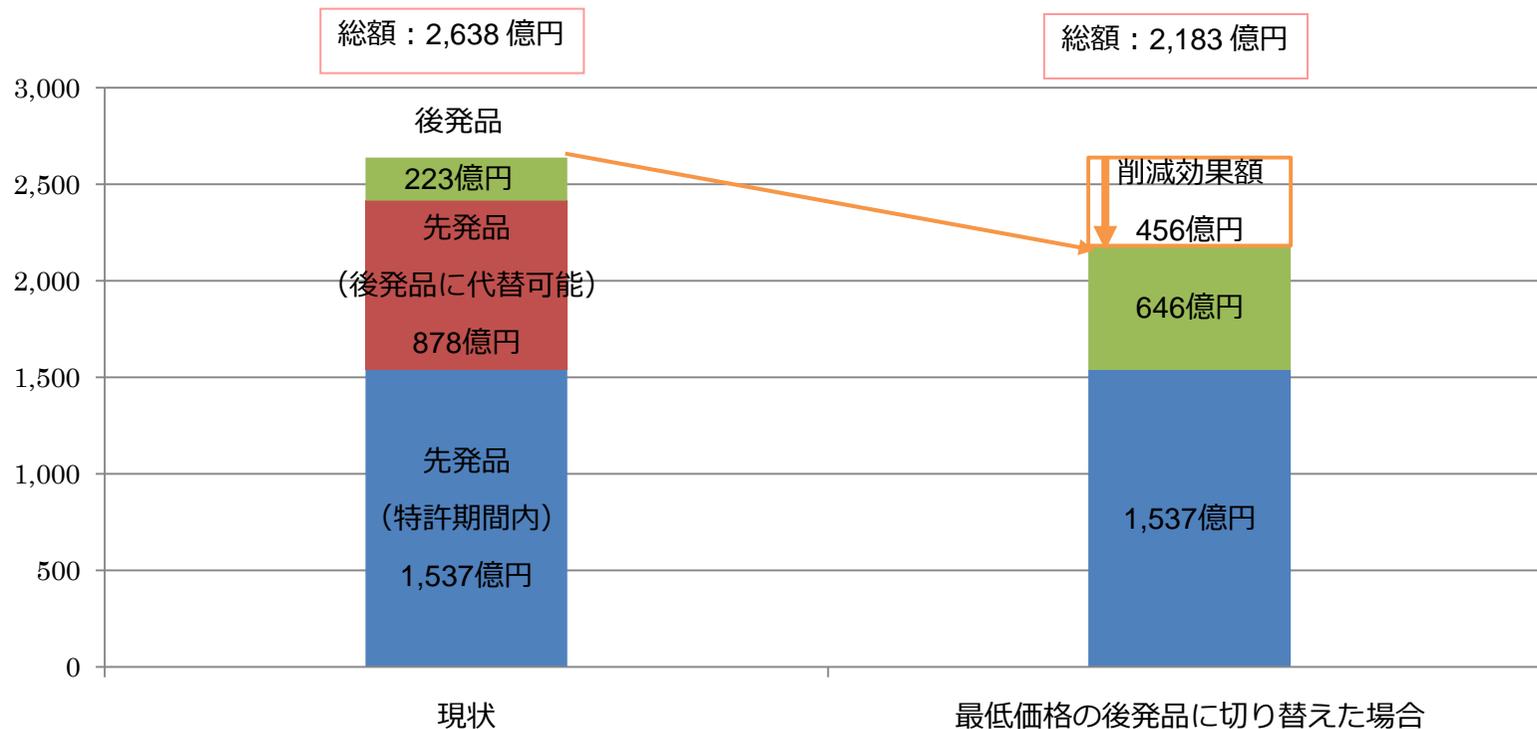
（※詳細については次頁の表を参照のこと。）



| 薬効分類 | (A)現状薬価(円) | (B)最低薬価の後発品にシフトした場合 | 削減額(A)-(B) | 変更削減率 |
|------------------------|-----------------|---------------------|----------------|-------|
| 11:中枢神経系用薬 | 29,957,836,117 | 26,119,015,013 | 3,838,821,104 | 13% |
| 12:末梢神経系用薬 | 682,968,533 | 360,929,426 | 322,039,107 | 47% |
| 13:感覚器官用薬 | 11,017,901,269 | 9,162,506,052 | 1,855,395,217 | 17% |
| 21:循環器官用薬 | 50,521,858,303 | 43,120,723,645 | 7,401,134,658 | 15% |
| 22:呼吸器官用薬 | 12,762,850,634 | 10,305,972,940 | 2,456,877,694 | 19% |
| 23:消化器官用薬 | 17,602,888,801 | 11,913,674,206 | 5,689,214,595 | 32% |
| 24:ホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。） | 10,692,608,504 | 10,426,674,751 | 265,933,753 | 3% |
| 25:泌尿生殖器官及び肛門用薬 | 3,126,739,303 | 2,418,083,037 | 708,656,266 | 23% |
| 26:外皮用薬 | 9,740,682,737 | 6,555,013,900 | 3,185,668,837 | 33% |
| 27:歯科口腔用薬 | 13,619,985 | 13,619,507 | 478 | 0% |
| 29:その他の個々の器官系用医薬品 | 55,698,454 | 52,029,818 | 3,668,636 | 7% |
| 31:ビタミン剤 | 2,702,432,254 | 2,244,976,431 | 457,455,823 | 17% |
| 32:滋養強壮薬 | 800,101,955 | 743,102,824 | 56,999,131 | 7% |
| 33:血液・体液用薬 | 10,866,989,751 | 6,690,471,877 | 4,176,517,874 | 38% |
| 34:人工透析用薬 | 294,200,811 | 276,707,273 | 17,493,538 | 6% |
| 39:その他の代謝性医薬品 | 24,631,633,138 | 21,124,076,387 | 3,507,556,751 | 14% |
| 41:細胞賦活用薬 | 1,154,039 | 1,154,039 | 0 | 0% |
| 42:腫瘍用薬 | 10,206,262,210 | 9,470,919,855 | 735,342,355 | 7% |
| 44:アレルギー用薬 | 31,270,790,682 | 25,427,552,814 | 5,843,237,868 | 19% |
| 51:生薬 | 174,501,683 | 174,501,683 | 0 | 0% |
| 52:漢方製剤 | 5,752,582,341 | 5,752,582,341 | 0 | 0% |
| 59:その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品 | 189,194,188 | 189,194,188 | 0 | 0% |
| 61:抗生物質製剤 | 12,624,826,995 | 8,682,677,453 | 3,942,149,542 | 31% |
| 62:化学療法剤 | 15,281,113,674 | 14,188,201,682 | 1,092,911,992 | 7% |
| 63:生物学的製剤 | 1,614,662,995 | 1,614,662,995 | 0 | 0% |
| 64:寄生動物用薬 | 19,400,959 | 15,290,113 | 4,110,846 | 21% |
| 71:調剤用薬 | 88,716,609 | 88,716,609 | 0 | 0% |
| 72:診断用薬（対外診断用医薬品を除く。） | 4,834,691 | 4,834,691 | 0 | 0% |
| 73:公衆衛生用薬 | 11,232 | 11,232 | 0 | 0% |
| 74:体外診断用医薬品 | 138 | 138 | 0 | 0% |
| 79:その他の治療を主目的としない医薬品 | 567,708,685 | 565,912,499 | 1,796,186 | 0% |
| 81:アルカロイド系麻薬 | 386,713,139 | 386,713,139 | 0 | 0% |
| 82:非アルカロイド系麻薬 | 207,489,085 | 207,481,885 | 7,200 | 0% |
| ZZ:該当マスタなし | 0 | 0 | 0 | 0% |
| 合計 | 263,860,973,895 | 218,297,984,444 | 45,562,989,451 | 17% |

後発品に代替可能な先発品を最低価格の後発品に置き換えた場合の削減効果（粗い試算）

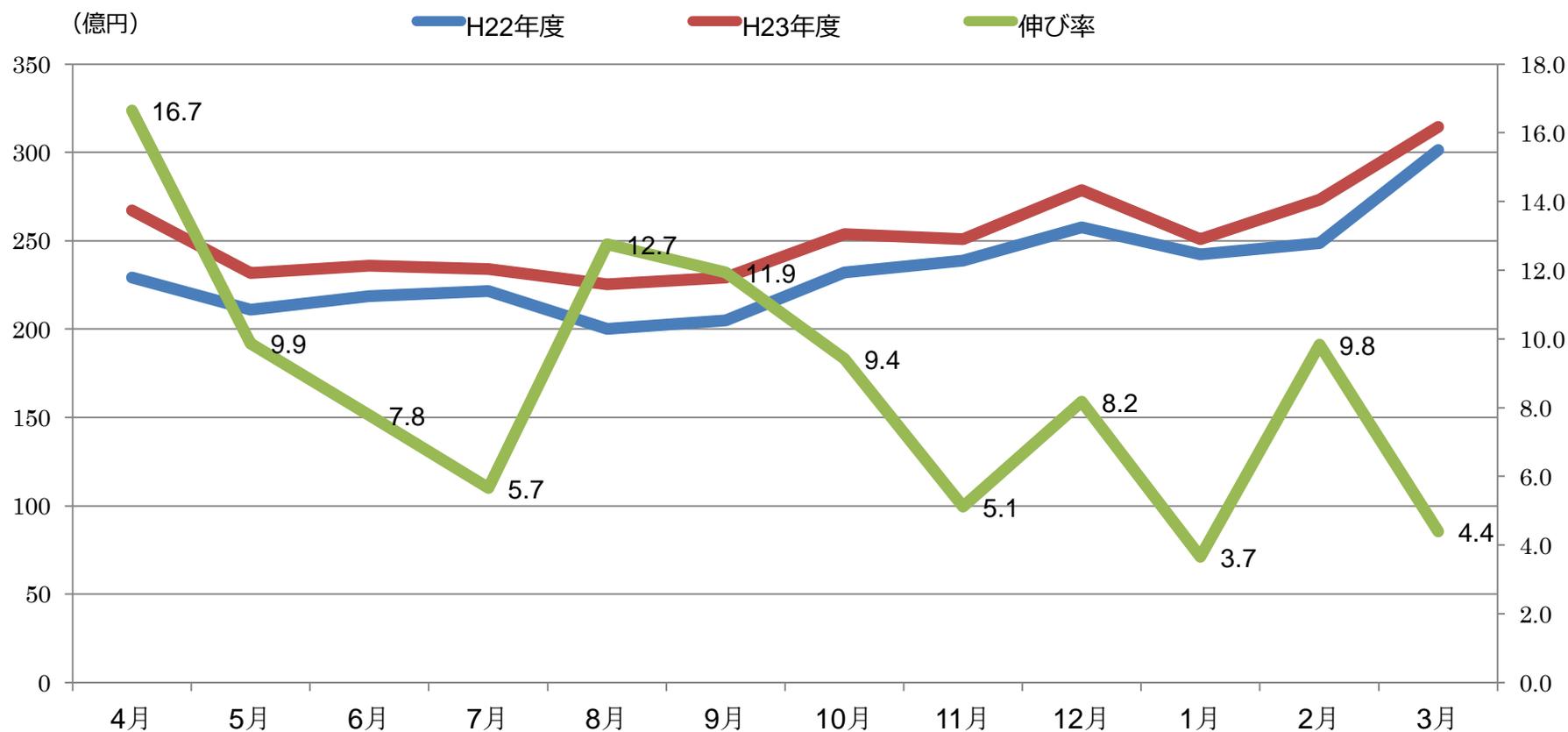
- 631 組合の医薬品総額 2,638 億円のうち、後発品に代替可能な先発品を最低価格の後発品に置き換えると、総額は 2,136 億円となり、削減効果は 456 億円で、削減率は 17%となる。
- ※ 現在、使用中の先発品・後発品を、最低薬価の後発品に置き換えた場合の粗い試算結果であり、①後発品のない先発品（特許が切れていない先発品）、②後発品の最低価格が先発品より高額なものについては集計の対象としていない。



調剤医療費の対前年度比

- 調剤医療費（471 組合）の対前年度比は約 8.6%伸びとなっている。
- 伸び率の月次推移では、とくに 4 月の伸び率が 16.7%と顕著であり、ついで、8月：12.7%、9月：11.9%—の順に高い数字となっている。

| 調剤医療費(471 組合) | |
|---------------|------------------|
| H22 年度 | 2,805 億 5,877 万円 |
| H23 年度 | 3,045 億 7,288 万円 |
| 伸び率 | 8.6% |



1人当たり調剤医療費及び医療費3要素の対前年度比

- 右の表は、調剤医療費（471 組合）を、1人当たり調剤医療費及び医療費3要素に分解してみたものである。
- 平成23年度の1人当たり調剤医療費は、本人・家族計：27,215円、対前年度比8.7%、本人：26,615円、同9.3%、家族：27,872円、同7.5%—とそれぞれ高い伸びを示している。
- また、受診率（1人当たり件数）及び1回当たり調剤医療費についても、それぞれ約4~5%の伸びとなっている。
- 一方、1件当たり回数は、総じてマイナスの伸びとなっていることから、調剤医療費の増加は、受診率と1回当たり調剤医療費の伸びが大きな要因となっているものと考えられる。

【本人・家族計】

| 1人当たり調剤医療費 | | | 受診率（1人当たり件数） | | |
|------------|---------|-------|--------------|-------|--------|
| H22年度 | H23年度 | 伸び率 | H22年度 | H23年度 | 伸び率 |
| 25,030円 | 27,215円 | 8.73% | 3.19 | 3.33 | 4.39% |
| 1回当たり調剤医療費 | | | 1件当たり回数 | | |
| H22年度 | H23年度 | 伸び率 | H22年度 | H23年度 | 伸び率 |
| 6,082円 | 6,385円 | 4.97% | 1.29回 | 1.28回 | -0.78% |

【本人】

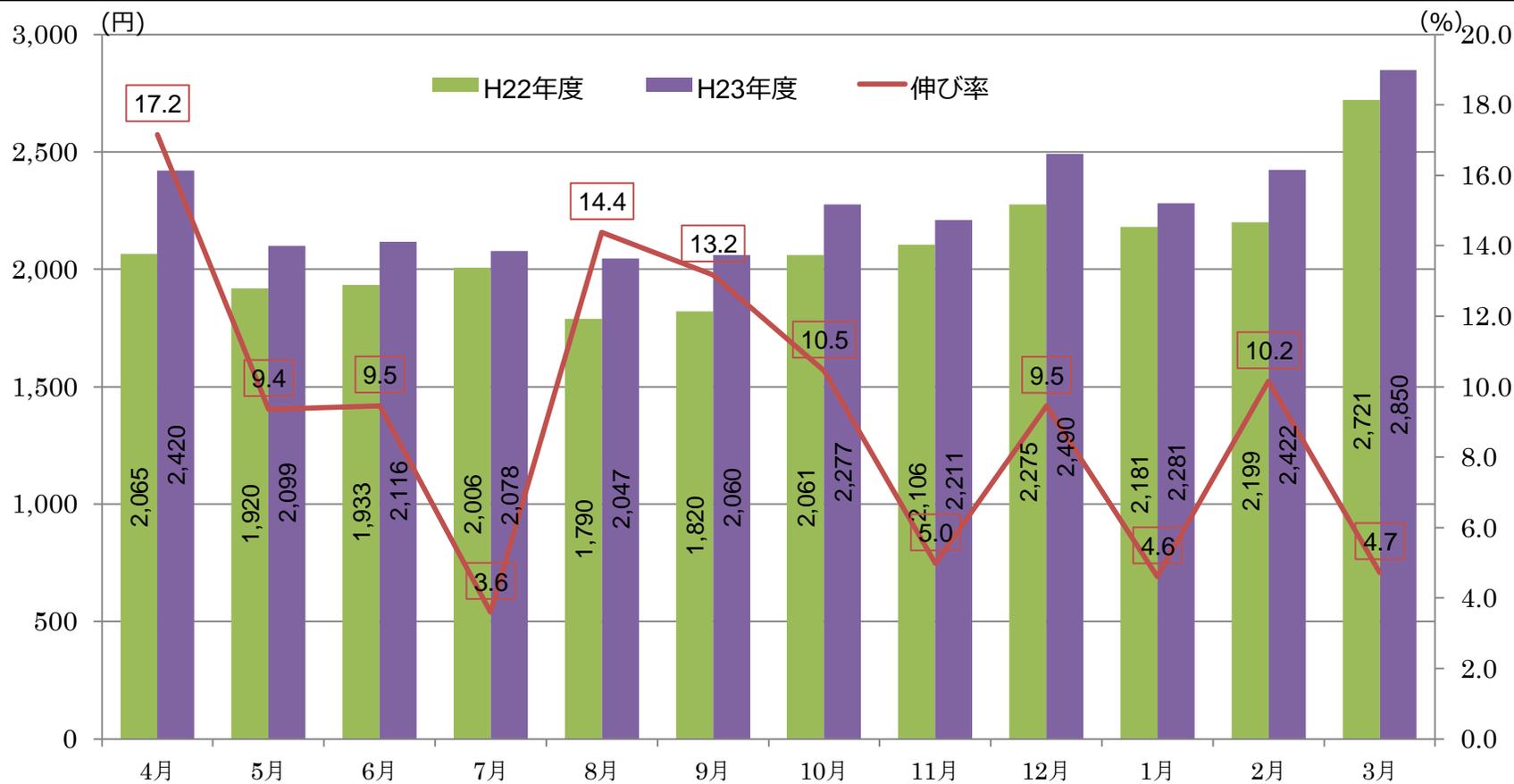
| 1人当たり調剤医療費 | | | 受診率（1人当たり件数） | | |
|------------|---------|-------|--------------|-------|--------|
| H22年度 | H23年度 | 伸び率 | H22年度 | H23年度 | 伸び率 |
| 24,345円 | 26,615円 | 9.33% | 2.74 | 2.87 | 4.74% |
| 1回当たり調剤医療費 | | | 1件当たり回数 | | |
| H22年度 | H23年度 | 伸び率 | H22年度 | H23年度 | 伸び率 |
| 7,283円 | 7,664円 | 5.24% | 1.22回 | 1.21回 | -0.82% |

【家族】

| 1人当たり調剤医療費 | | | 受診率（1人当たり件数） | | |
|------------|---------|-------|--------------|-------|--------|
| H22年度 | H23年度 | 伸び率 | H22年度 | H23年度 | 伸び率 |
| 25,918円 | 27,872円 | 7.54% | 3.69 | 3.83 | 3.79% |
| 1回当たり調剤医療費 | | | 1件当たり回数 | | |
| H22年度 | H23年度 | 伸び率 | H22年度 | H23年度 | 伸び率 |
| 5,203円 | 5,431円 | 4.38% | 1.35回 | 1.34回 | -0.74% |

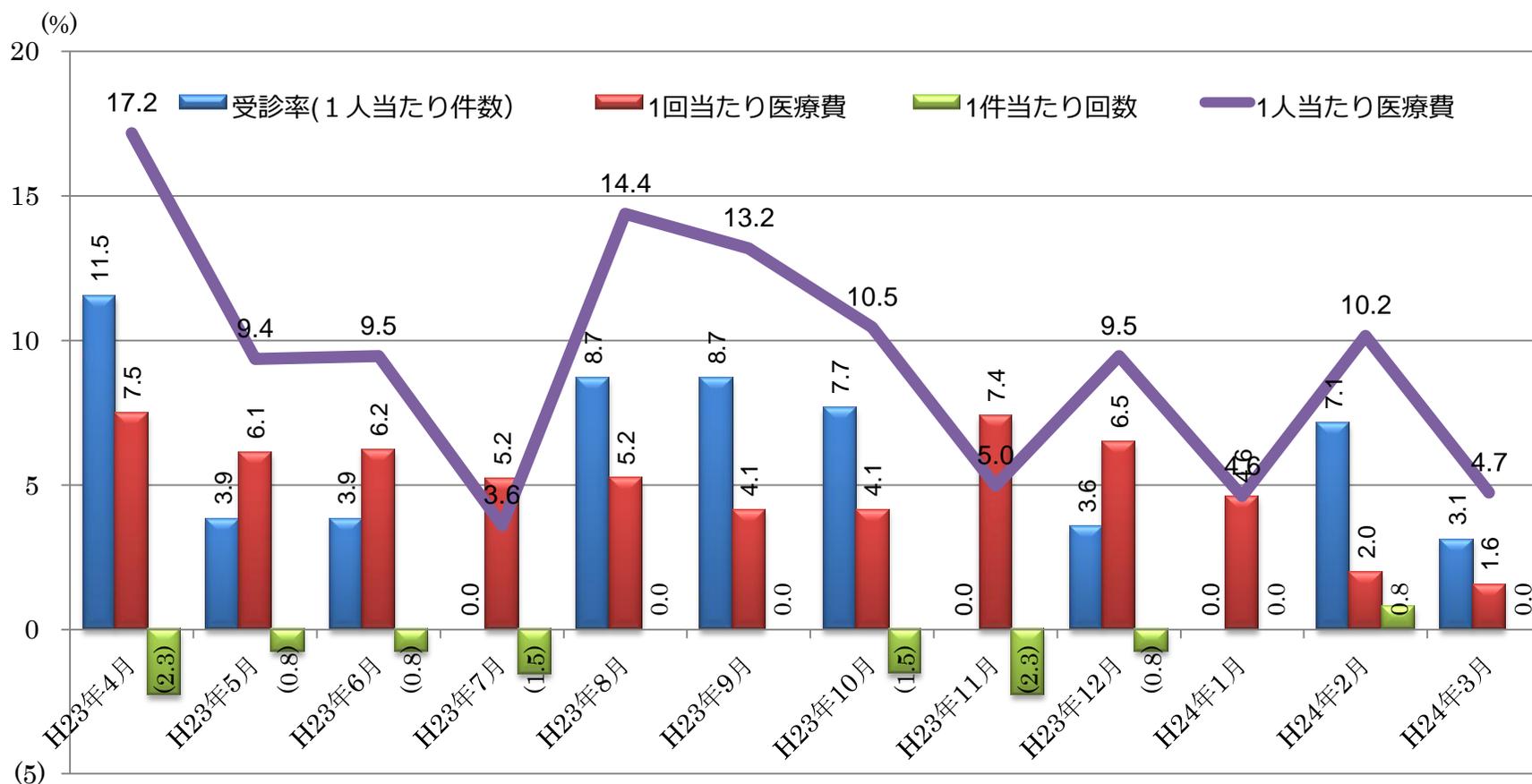
1人当たり調剤医療費の月次推移と対前年同期比

- グラフは、22年度と23年度の1人当たり調剤医療費と対前年同期比の伸び率を月次でみたものである。
- 1人当たり医療費は総じて前年に比べ増加しており、とくに伸び率が高いのは、4月：17.2%で、1人当たり調剤費は2,420円、ついで、8月：14.4%、2,047円、9月：13.2%、2,060円—となっている。



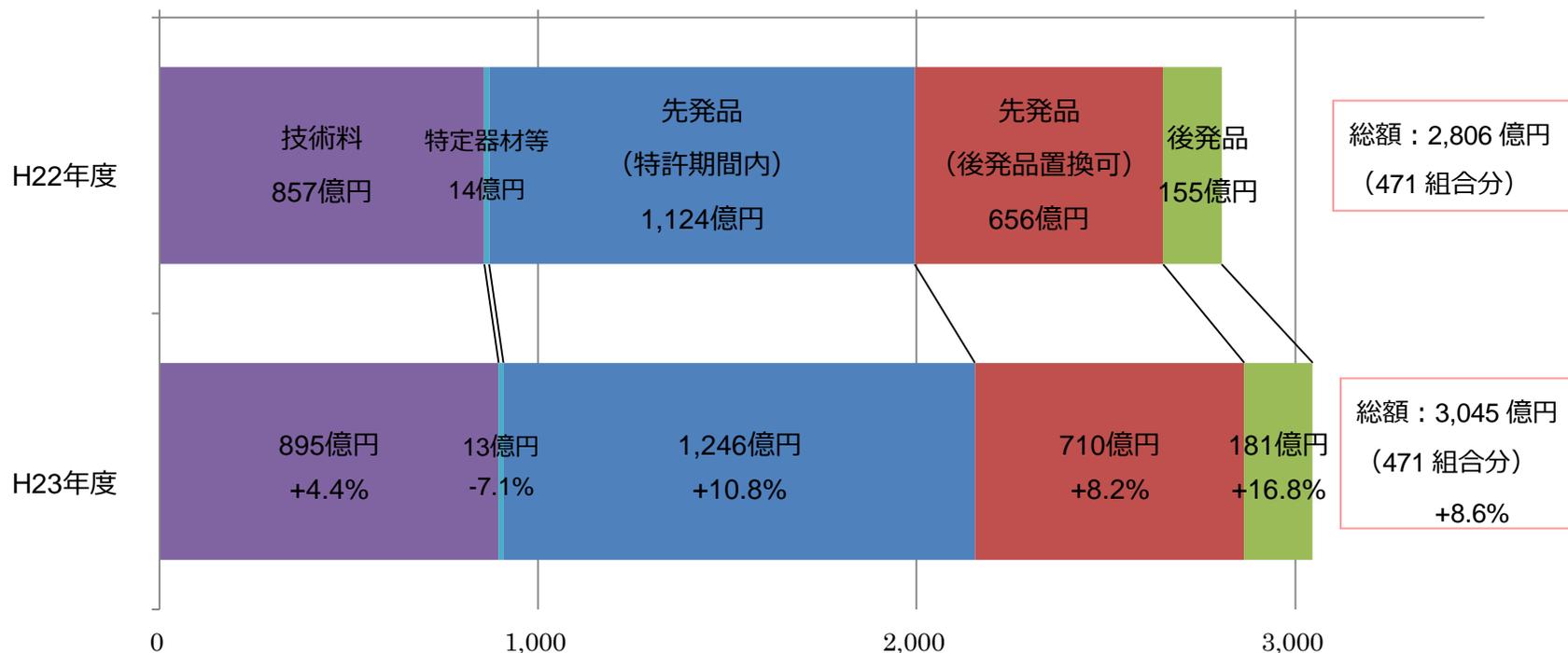
調剤医療費の伸び率の月次推移

- グラフは1人当たり調剤医療費（折れ線グラフ）及び医療費3要素（棒グラフ）における対前年度同期比の伸び率の月次推移をみたものである。
- 1人当たり医療費の動きをみると、4月の伸び率が顕著（17.2%）となっており、他の月に比べ、受診率（1人当たり件数）の伸びが高くなっている。一方、伸び率が最も低いのは7月（3.6%）で、受診率のマイナスが寄与しているものと考えられる。



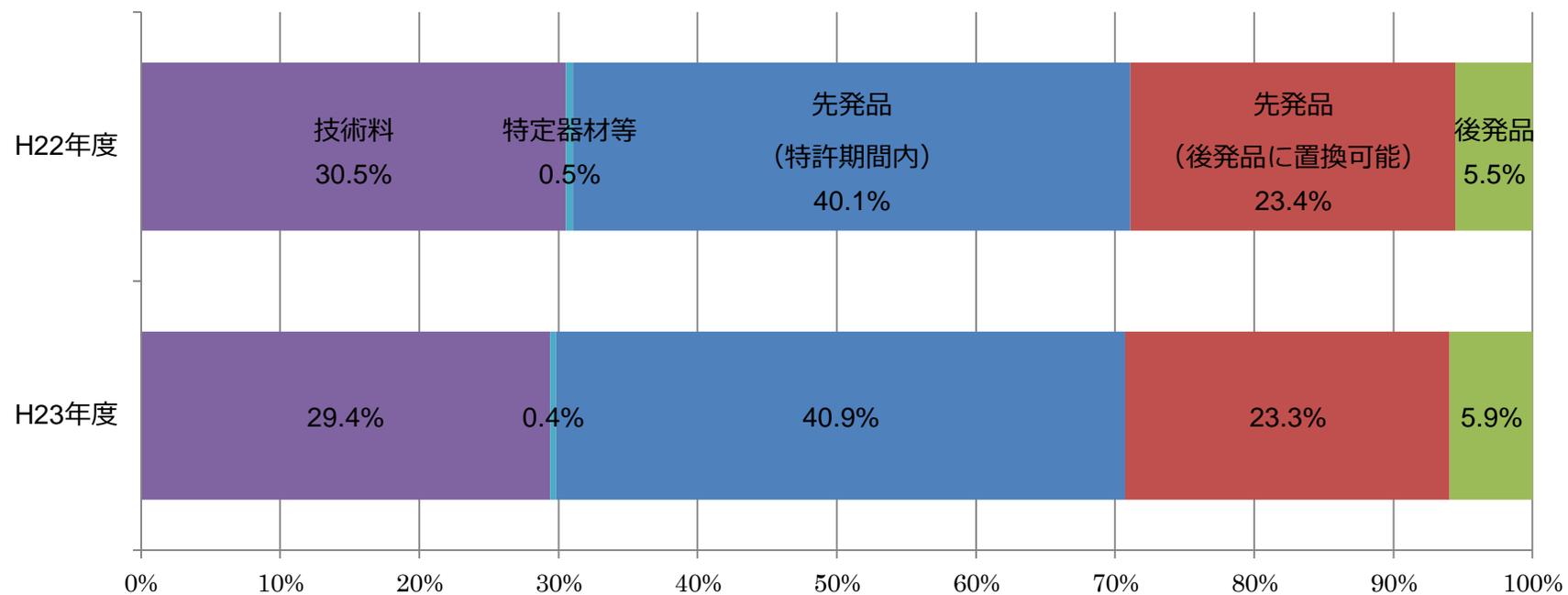
調剤医療費の内訳と伸び率

- グラフは、平成 22 年度と平成 23 年度の調剤医療費の金額ベースの内訳を比較したものである。
- 平成 23 年度の調剤医療費（471 組合）：3,045 億円の内訳をみると、①技術料：895 億、+4.4%、②特定器材等：13 億、-7.1%、③先発品（特許期間内）：1,246 億円、+10.8%、④先発品（後発品に置き換え可能）：710 億円、+8.2%、⑤後発品：181 億円、+16.8%—となっており、特定器材等を除くすべての項目で伸びていることがわかる。



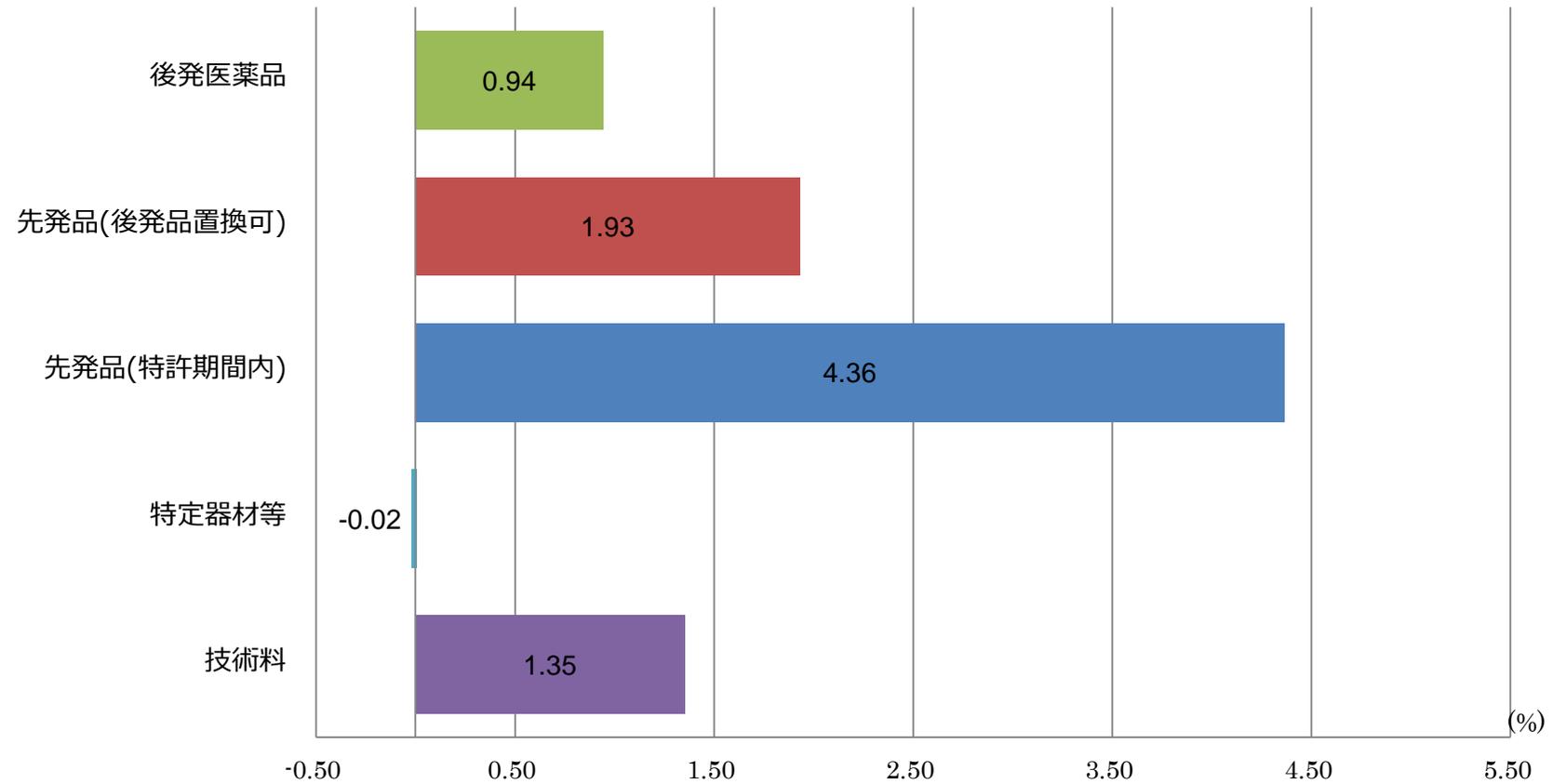
調剤医療費の構成割合

- グラフは、平成 22 年度と平成 23 年度の調剤医療費の金額ベースの構成割合を示したものである。
- 最も大きな割合を占めているのは（23 年度）、先発品（特許期間内）：40.9%で、前年度より 0.8 ポイント増加している。ついで技術料：29.4%で、前年度より 1.1 ポイント減少している。
- なお、後発品は 0.4 ポイント増加している。



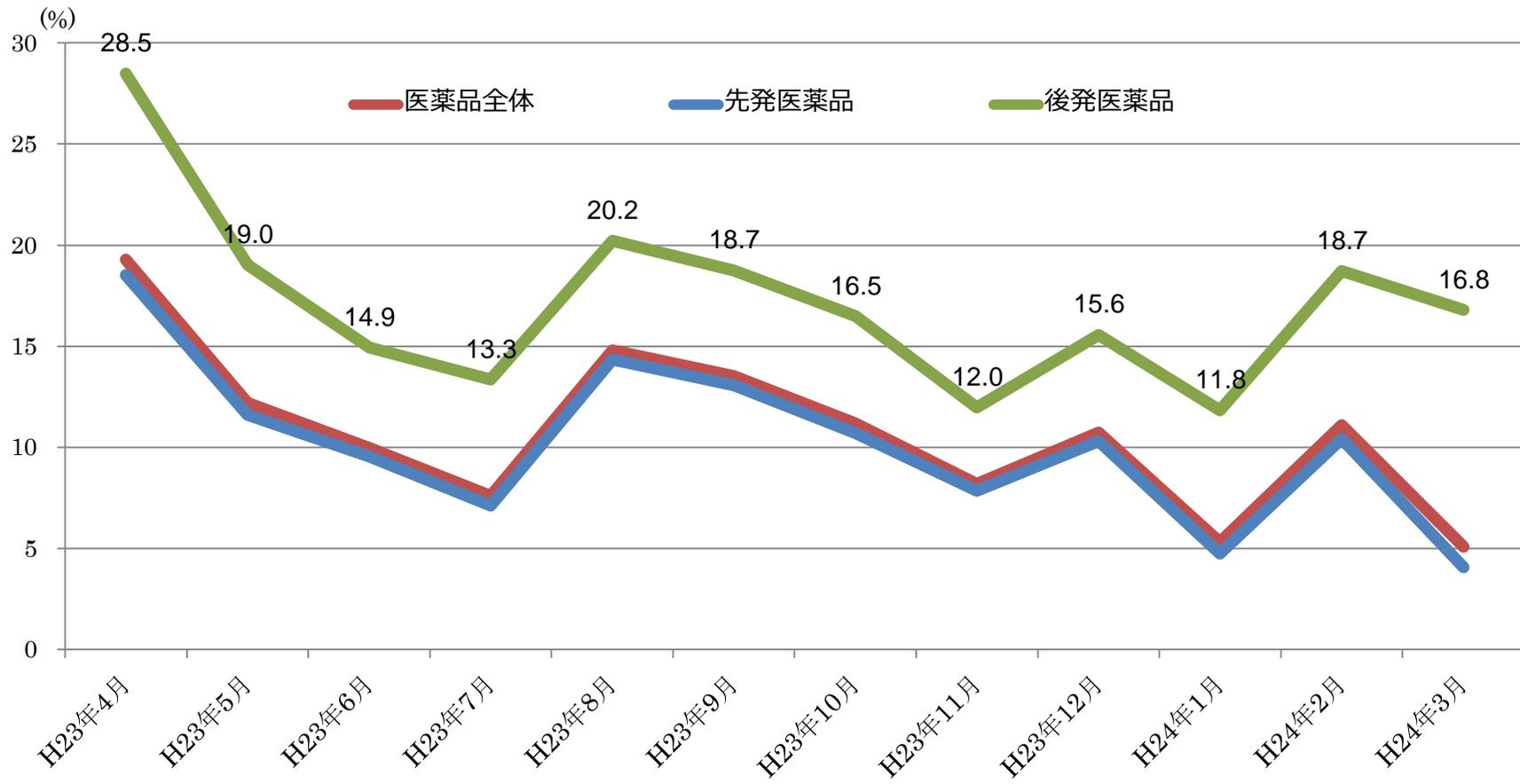
調剤医療費の伸びの内訳

- グラフは、調剤医療費の対前年度比 8.56%の伸び率の内訳を示したものである。
- 8.56%の内訳をみると、①先発品（特許期間内）：4.36%、②先発品（後発品置換可能）：1.93%、③技術料：1.35%、④後発医薬品：0.94%、⑤技術料：-0.02%—となっている。



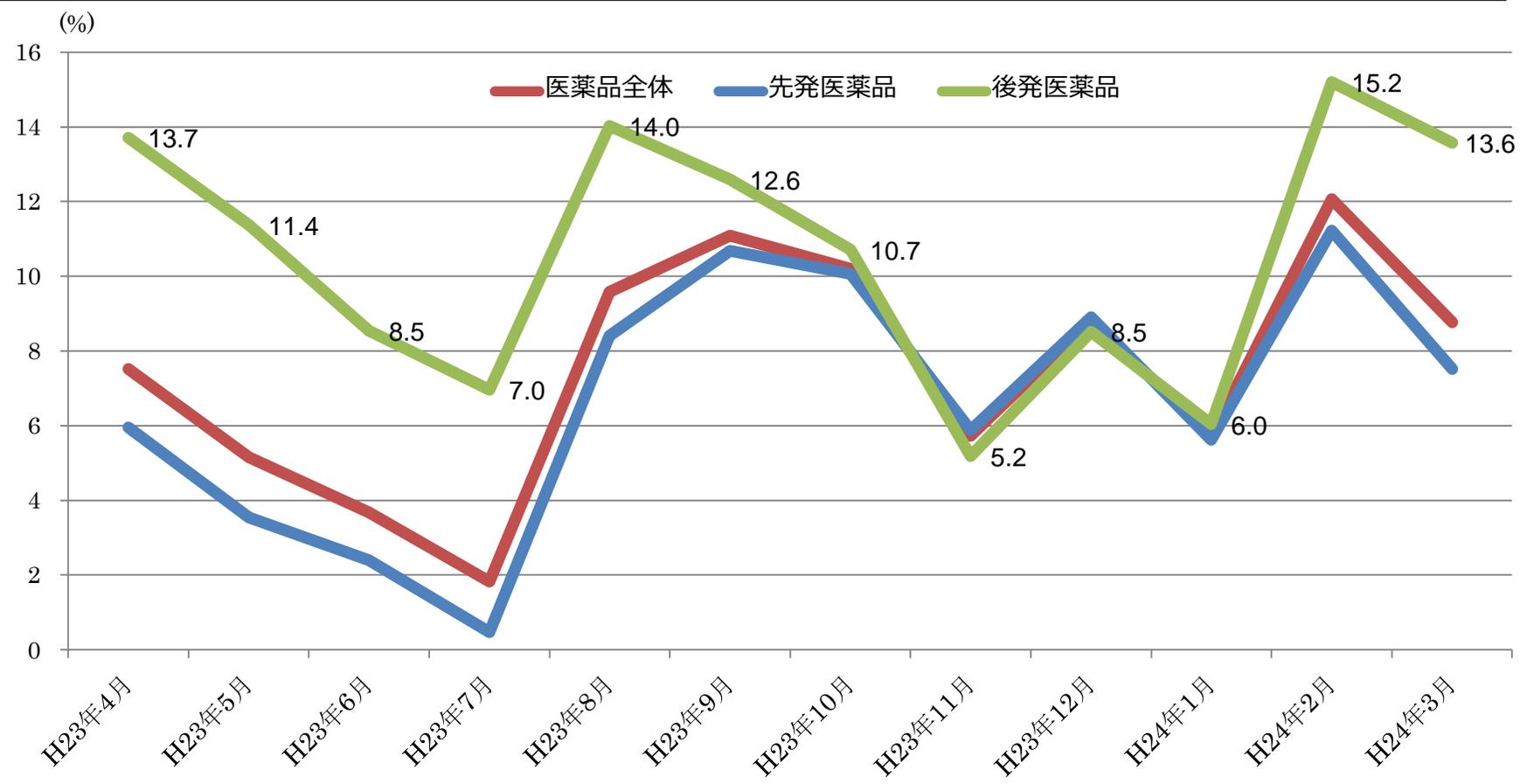
薬剤費の伸び率（金額ベース）の月次推移

- グラフは薬剤費の金額ベースの伸びについて、①医薬品全体、②先発品、③後発品—に区分してその推移をみたものである。
- 後発品の金額ベースでの伸びが顕著となっており、4月：28.5%、8月：20.2%、5月：19.0%の順に高い伸びを示している。



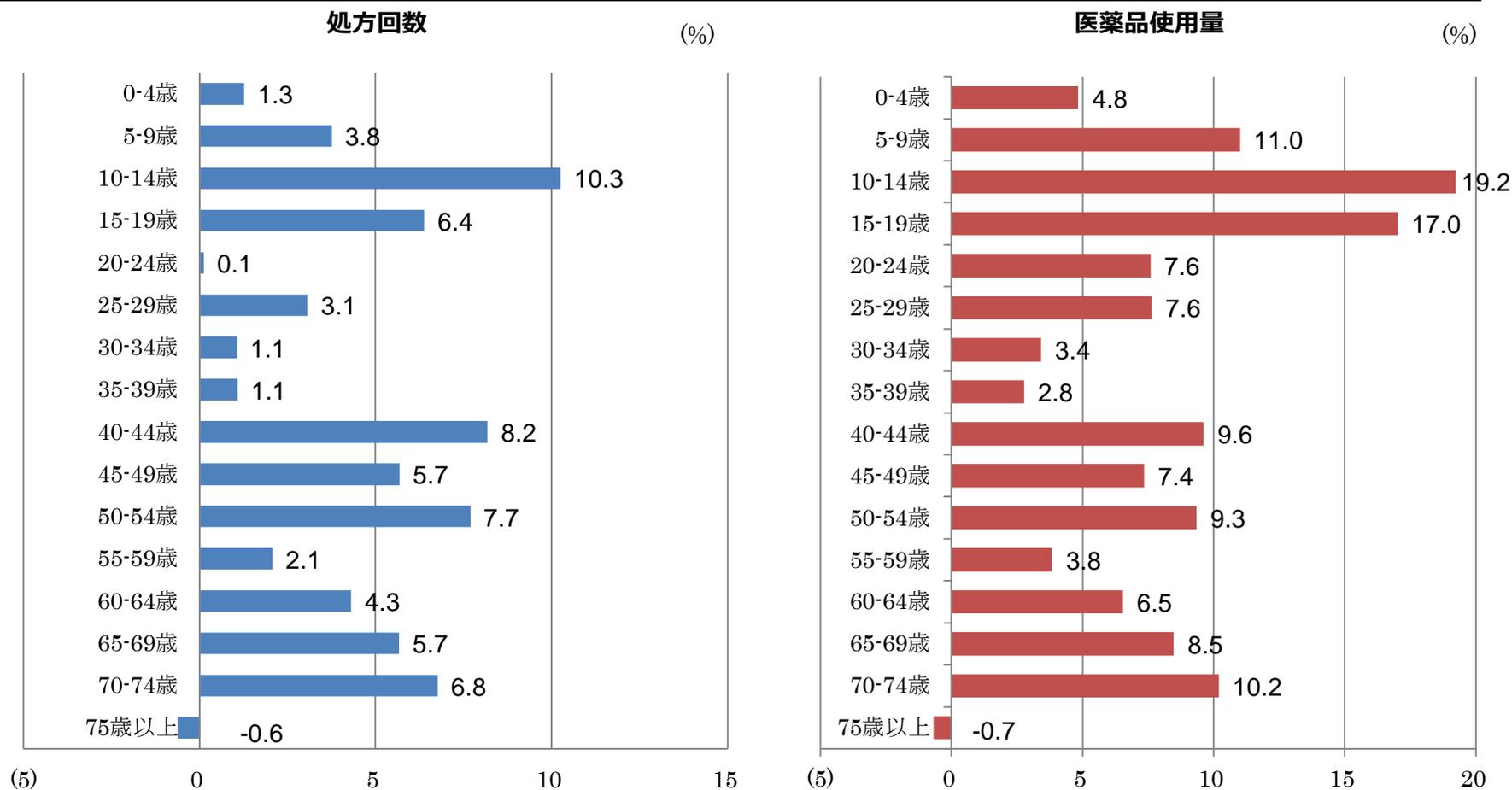
薬剤費の伸び率（数量ベース）の月次推移

- グラフは薬剤費の数量ベースの伸びについて、①医薬品全体、②先発品、③後発品—に区分してその推移をみたものである。
- 金額ベース同様、数量ベースでも後発品の伸びが顕著となっており、2月：15.2%、8月：14.0%、4月：13.7%の順に高い伸びを示している。



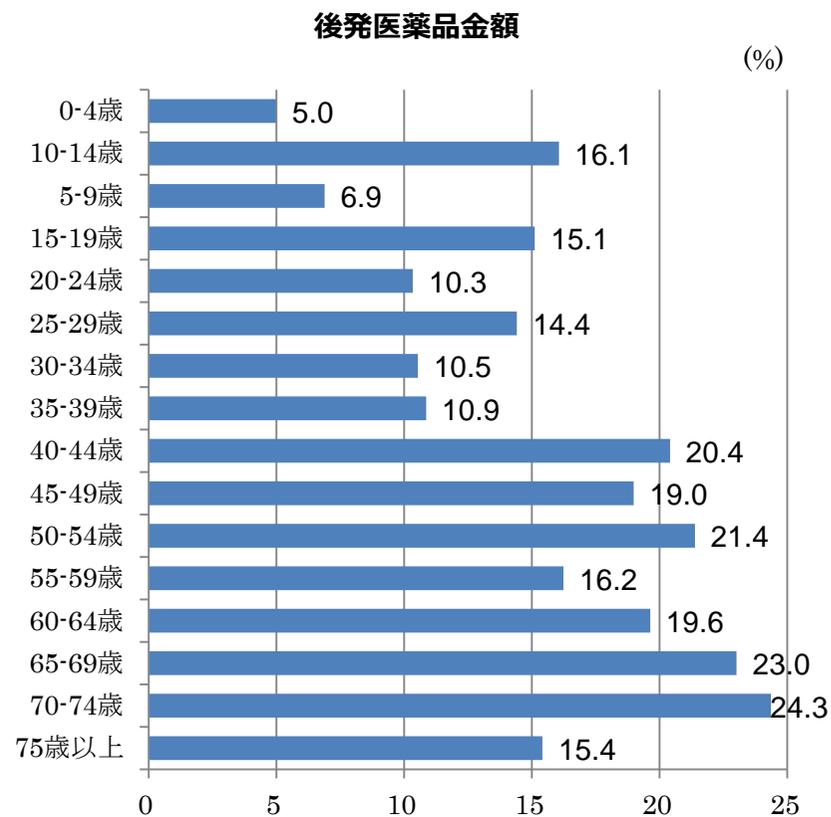
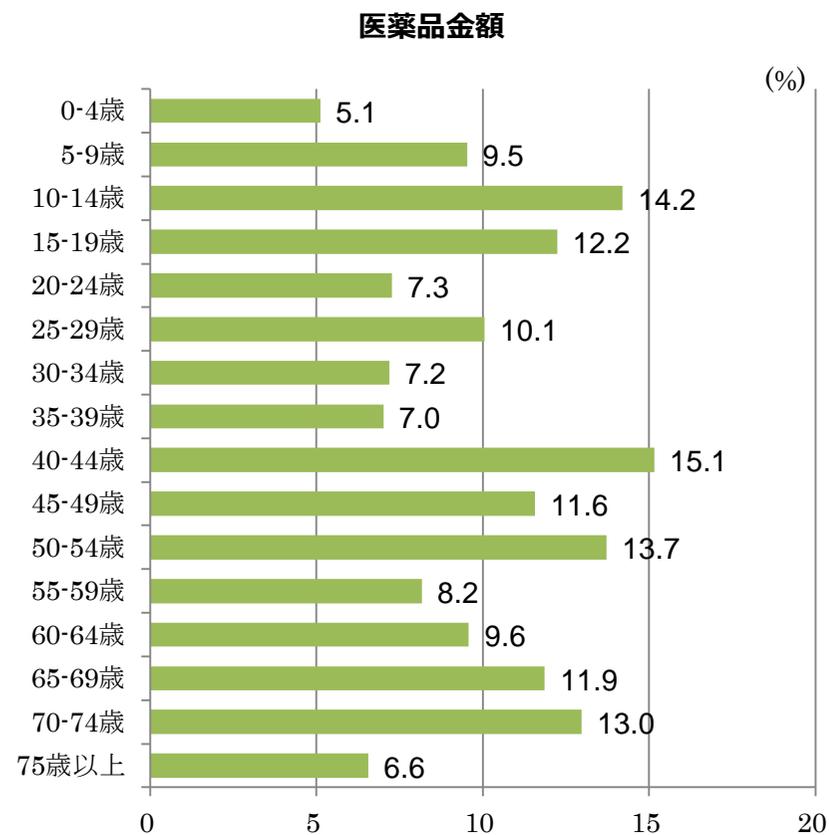
年齢階層別にみた処方回数、医薬品使用量の伸び率

- グラフは、年齢階層別に処方回数と医薬品使用量の伸び率を示したものである。
- 処方回数の伸び率では、①10-14歳：10.3%と最も高く、ついで②44-45歳：8.2%、③50-54歳：7.7%となっている。
- 医薬品使用量の伸び率でも、①10-14歳：19.2%が最も高く、ついで②15-19歳：17.0%、③5-9歳：11.0%となっている。



年齢階層別にみた医薬品金額、後発医薬品金額の伸び率

- グラフは、年齢階層別に医薬品金額と後発医薬品金額の伸び率を示したものである。
- 医薬品金額の伸び率では、①40-44歳：15.1%と最も高く、ついで②50-54歳：13.7%、③70-74歳：13.0%となっている。
- 一方、後発医薬品は、概ね年齢階層が上がるにつれて高くなる傾向が示されており、①70-74歳：24.3%、②65-69歳：23.0%、③40-44歳：20.4%となっている。



参考：都道府県別にみた後発医薬品の普及（数量ベース）状況（22年度と23年度の比較）

